



Viewer アプリケーション操作ガイド

2025.11 Ver.1.1.0



Viewer application Operation guide

改訂履歴

バージョン	日付	内容
1.1.0.1	2025/11	初版



内容

Viewer アプリケーション操作ガイド	1
1. はじめに.....	5
1.1. 本ソフトウェアについて	5
1.2. 使用上のご注意・免責事項	5
1.3. 著作権及び使用許諾条項	6
1.4. 動作環境	6
1.5. 動作性能	6
2. Viewer アプリケーション操作ガイド	7
2.1. メイン画面の見方.....	7
2.2. Viewer アプリケーションを起動又は終了する.....	8
2.2.1. アプリケーションの起動.....	8
2.2.2. アプリケーションの終了	8
2.3. 本ドキュメントを表示する	9
2.4. ロギングファイルを保存又は読み込む	9
2.4.1. ロギングファイルを保存する	9
2.4.2. ロギングファイルを読み込む.....	10
2.5. ブックマーク操作を行う.....	11
2.5.1. ブックマークの設定・解除	11
2.5.2. ブックマークの検索・削除.....	11
2.6. カラムの表示/非表示を行う.....	12
2.7. ログの行選択・コピー・クリア操作を行う	13
2.7.1. ログの行選択方法	13
2.7.2. ログの行コピー	15
2.8. ログを検索する	16
2.8.1. 検索ウィンドウの説明.....	16
2.8.2. 検索文字列入力方法	17
2.8.3. オプション設定を使用したログ検索.....	18
2.9. 高度な検索を行う.....	22
2.9.1. 高度な検索ウィンドウの説明.....	22
2.9.2. オプション設定.....	23
2.9.3. 検索条件設定領域.....	24
2.9.4. 検索結果表示領域.....	26



2.10. ロギングの停止・再開を行う	27
2.10.1. ロギングの一時停止	27
2.10.2. ロギングの停止.....	27
2.10.3. ロギングの再開.....	28
2.11. アプリケーションの表示言語を変更する	28
2.12. ビジビリティフィルタを使用する	29
2.12.1. ビジビリティフィルタ設定ウィンドウの説明.....	29
2.12.2. オプション設定.....	30
2.12.3. フィルタ条件設定領域	31
2.13. カラーフィルタを使用する	33
2.13.1. カラーフィルタ設定ウィンドウの説明	33
2.13.2. オプション設定.....	34
2.13.3. フィルタ条件設定領域	35
2.14. 一般的な設定を行う	37
2.14.1. 一般設定 ロギングビュー設定	37
2.14.2. 一般設定 ロギングファイル設定	39
2.14.3. 一般設定 コンフィグレーション.....	43
2.14.4. 一般設定 オプション設定（有償版機能）.....	46
2.15. 高度な設定を行う	50
2.15.1. 高度な設定ウィンドウの説明.....	50
2.16. ウィンドウの動作を設定する.....	53
2.16.1. ウィンドウを常に最前面に表示する	53
2.16.2. ウィンドウをタスクトレイに最小化表示する.....	53
3. ライセンス登録.....	55
3.1. ライセンスを登録する.....	55
3.2. トライアルエディションについて	56
3.2.1. フリーエディションへの切り替え	56



1. はじめに

この度は、Logging Foot（読み方：ロギングフット、以下 本ソフトウェアと記述）をダウンロードしていただき誠にありがとうございます。本ソフトウェアのご使用前に本書をお読みになっていただき、ご理解を深めてからご活用いただけると幸いです。

1.1. 本ソフトウェアについて

本書で述べる本ソフトウェアとは、後述する FTSDK 及び Viewer アプリケーション等の関連する一連のソフトウェア群を示します。

本ソフトウェアが提供する API 群（以下、FTSDK と記述）をお客様のプログラムに実装していただくことにより、本ソフトウェアが提供する Viewer アプリケーション上でのリアルタイムなログ表示、検索、抽出、保存といった各種機能を使用してプログラムの動作を解析・検証したり、エンドユーザーの操作ログを残したりする用途にご使用いただけます。

お客様のプログラム開発におけるデバッグ作業や稼働時に出力されるログの解析など、開発や運用にかかる負担の軽減に貢献します。

1.2. 使用上のご注意・免責事項

- ・ 個人情報や機密情報などの秘匿性の高い情報は本ソフトウェアで出力しないようにしてください。
- ・ 医療、金融系システムといった高い信頼性が求められるシステム下では使用しないでください。
- ・ 万が一、本ソフトウェアを使用したことにより生じたいかなる障害・損害につきましても、作者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 本ソフトウェアを導入するにあたり、本ソフトウェアが提供している無償版及び試用版を使用してお検討いただき、お客様の責任において導入してください。
- ・ 本ソフトウェアにバグ及び不具合が見つかった場合、作者は改善する努力はしますが義務は負わないものとします。



1.3. 著作権及び使用許諾条項

本ソフトウェアを使用するにあたり、以下の条項に同意したものとみなされます。

- ・ 本書及び本ソフトウェアの著作権は作者 Quantityworks Software に帰属します。本書及び本ソフトウェアを作者に無断で転載、複製、改変、配布、販売などを行うことを禁止します。
- ・ お客様は、本ソフトウェアが提供する機能を正しく動作させる目的においてのみ本ソフトウェアを使用することができます。
- ・ 本ソフトウェアをお客様のプログラムに組み込み、かつ本ソフトウェアの機能が正常に動作する状態において、お客様のプログラムと共に複製及び再配布をすることができます。
- ・ お客様は、本ソフトウェアのご使用版が無償版・有償版を問わず、組み込み先となるお客様のプログラムが商用利用・非商用利用を問わず前述の使用条件下において本ソフトウェアを使用することができます。

1.4. 動作環境

OS: Windows10(64 ビット)、Windows11(64ビット)

CPU: Intel 第4世代以降又は互換 CPU (推奨)

RAM: 4GB 以上 (推奨)

ストレージ: 32MB 以上の空き容量 ※ ただし保存されるログ容量は除く

1.5. 動作性能

- ・ 出力ログの最小間隔 : 2~3ms以下 ※ Intel 8 世代CPUでの検証結果
 - ・ Viewer アプリケーション
 - ログの最大表示行数 : 10,000 行 ※ 超えた分は先頭行から消去されます
 - ログ1件あたりの最大出力バイト数 : 4KB ※ 超えた分は出力されません。
 - ログ出力対応言語 : 英語、日本語 ※ 特殊文字・記号は非対応(文字化けします)
 - 最小表示間隔 : 16ms ※ これよりも短い間隔で出力があった場合、内部でバッファリングされます。(出力ログが消失することはありません。)
- このため、最小表示間隔よりも短い間隔で出力が続くとメモリ使用量が増大します。

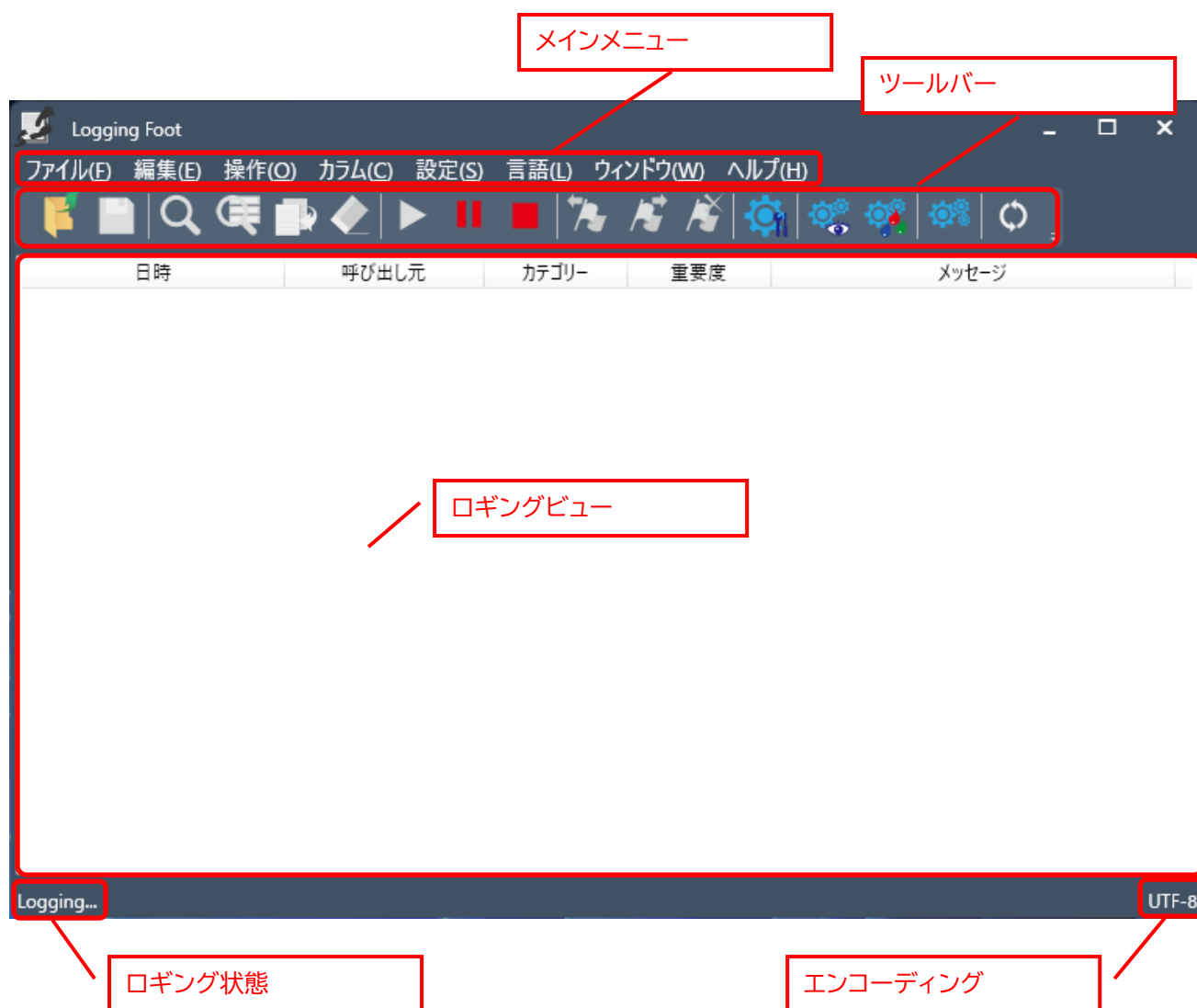


2. Viewer アプリケーション操作ガイド

本書では、本ソフトウェア構成のうち Viewer アプリケーションについて説明します。

本 Viewer アプリケーションは、FTSDK を使用して出力したログをリアルタイムで表示、保存するだけでなく、高度な検索機能及びフィルタ機能があります。これらを駆使することで注目したいログだけを表示したり、色分けしたりといった大量に出力されたログを効率的に解析することが可能です。以降、特に断りがない限り本 Viewer アプリケーションを「本アプリケーション」と呼ぶことにします。

2.1. メイン画面の見方





GUI	説明
メインメニュー	ブックマーク操作を除くほぼ全ての操作メニューにアクセスできます。
ツールバー	主にメインメニューのショートカットとして提供されます。
ロギングビュー	クライアントプロセスから出力されたログが表示されます。 メインメニュー [カラム(C)] を選択することにより表示又は非表示するカラムを選択することができます。
ロギング状態	以下の状態が存在します。 Logging : ロギング中 Pausing : ログ表示の更新は停止(ロギングは継続) Suspend : ロギング停止中 Logging File : 読込したログファイルを表示中 Error : エラー発生によるロギング停止中
エンコーディング	現在のエンコーディングが表示されます。 これは、ログのファイル保存時に適用されます。

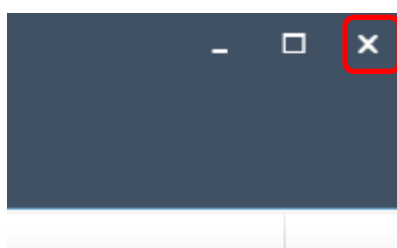
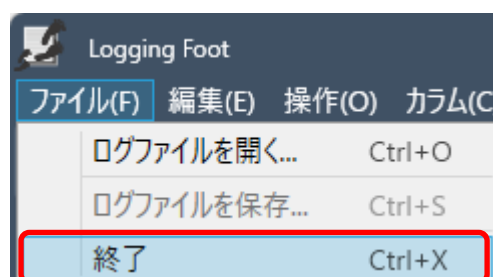
2.2. Viewer アプリケーションを起動又は終了する

2.2.1. アプリケーションの起動

ft_viewer.exe を起動する又は FTSDK API を実装したお客様のプログラムから起動することができます。詳細は別紙「ソフトウェア導入ガイド」をご参照ください。

2.2.2. アプリケーションの終了

メインメニュー [ファイル(F)>終了] を選択又は画面右上 X ボタンを押下することにより終了することができます。ただし、FTSDK API によりプログラムから起動した場合は、前述の操作では終了することはできません。FTSDK API を呼び出すことにより終了する必要があります。詳細は別紙「ソフトウェア導入ガイド」をご参照ください。





2.3. 本ドキュメントを表示する


メインメニュー [ヘルプ(H)>ヘルプを表示] を選択することで本ドキュメントを開くことができます。

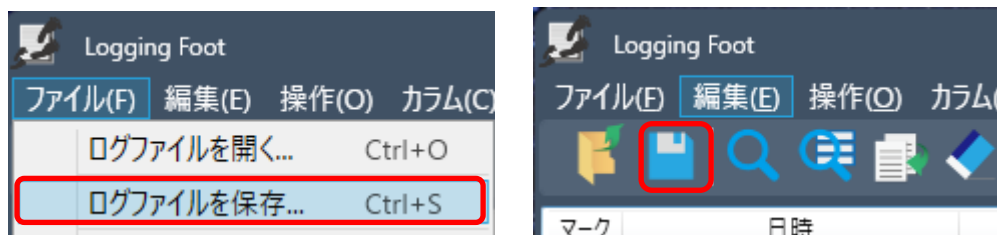


2.4. ログファイルを保存又は読み込む

ログファイルは、[2.14.2 一般設定 ログファイル設定](#) の内容に従いバックグラウンドで随時保存されていますが、任意のタイミングで保存し、それを読み込むことができます。

2.4.1. ログファイルを保存する

メインメニュー [ファイル(F)>ログファイルを保存]を選択又はツールバーアイコン  をクリックすることによりファイル保存ダイアログが開かれます。




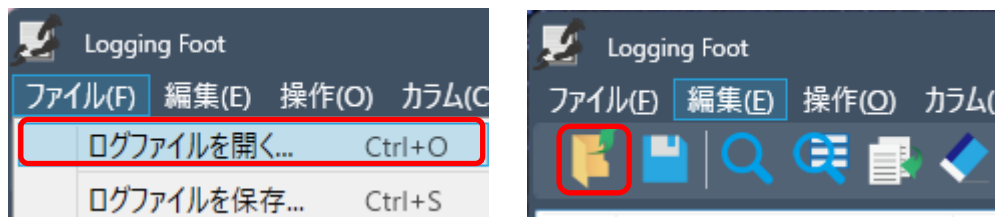
ファイルダイアログでは、下表に示す2種類のファイル形式で保存することができます。

ファイル種類	説明
CSV 形式ログファイル(.csv)	出力ログの各項目をカンマ区切りで保存する汎用的な保存形式です。
Logging Foot 専用ファイル(.ftlog)	出力ログの他、各種フィルタ設定、ブックマークの設定状態を保存する Logging Foot 専用の保存形式です。



2.4.2. ロギングファイルを読み込む

メインメニュー [ファイル(F)>ログファイルを開く]を選択又はツールバーアイコン  をクリックすることによりファイル開くダイアログが開かれます。



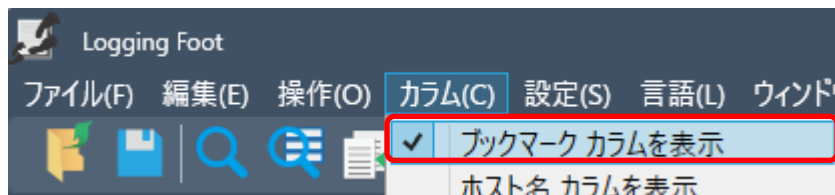
ファイルダイアログでは、下表に示す2種類のファイル形式を開くことができます。

ファイル種類	説明
CSV 形式ログファイル(.csv)	本アプリケーションで保存した CSV 形式ログファイルを開くことができます。
Logging Foot 専用ファイル(.ftlog)	出力ログの他、各種フィルタ設定、ブックマークの設定が復元されます。



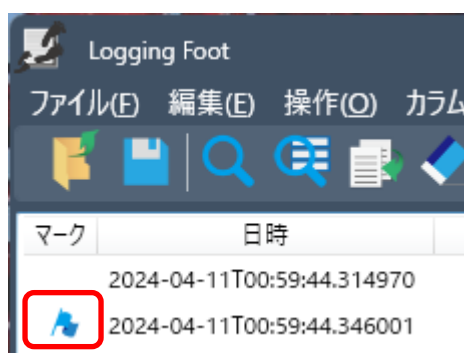
2.5. ブックマーク操作を行う

メインメニュー [カラム(C)]より[ブックマーク カラムを表示]を選択して[マーク]のカラムを表示させることで操作可能になります。





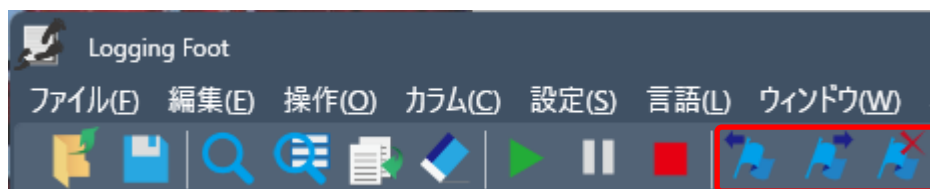
2.5.1. ブックマークの設定・解除


ブックマークを設定したい行で[マーク]のカラムをクリックします。
ブックマークが設定された行はフラグのアイコンが表示されます。
ブックマークを解除したい場合は、フラグのアイコンをクリックします。



2.5.2. ブックマークの検索・削除

ツールバーアイコン  又は  をクリックすると上方向又は下方向にブックマーク設定行が検索されてハイライト表示されます。



ツールバーアイコン  をクリックすることにより、設定された全てのブックマークが解除されます。



2.6. カラムの表示/非表示を行う


メインメニュー [カラム(C)]より各カラムの表示非表示を選択することができます。表示中のカラムには ☒ マークが表示されています。

カラムの表示非表示設定は、検索結果やフィルタ結果に影響を与えません。

デフォルトでは、下図のカラムが表示状態になっています。



各メニューとカラムの説明は下記のとおりです。

GUI	説明
ブックマーク カラム	ブックマーク  を表示・設定するカラムです。
ホスト名 カラム	クライアントプロセスが実行されている PC 名が表示されます。
プロセス名 カラム	クライアントプロセスのプロセス名が表示されます。
PID カラム	クライアントプロセスのプロセス ID が表示されます。
日時 カラム	ログが出力された日時が表示されます。
呼び出し元 カラム	ログを出力した関数名又はメソッド名が表示されます。
カテゴリ カラム	ログ出力時に指定したカテゴリ名が表示されます。
重要度 カラム	ログ出力時に指定した重要度が表示されます。
メッセージ カラム	ログ出力時に指定したメッセージが表示されます。



2.7. ログの行選択・コピー・クリア操作を行う

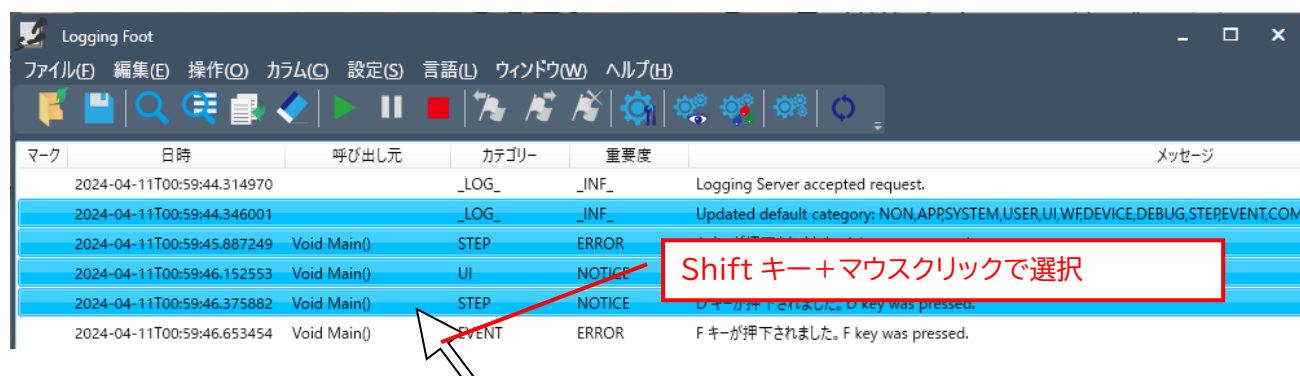
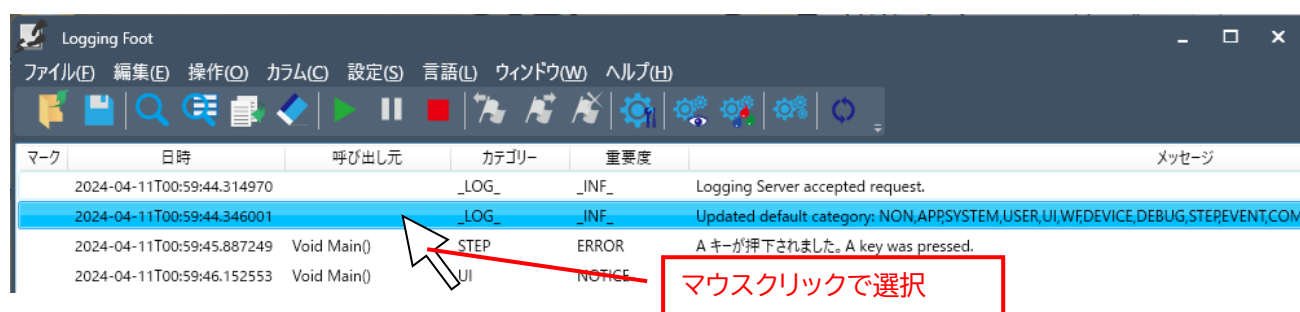
選択した行のログをコピーするとテキストデータとしてメモ帳などのアプリケーションに貼り付けることができます。

2.7.1. ログの行選択方法

ログは範囲選択、複数行選択、全選択ができます。

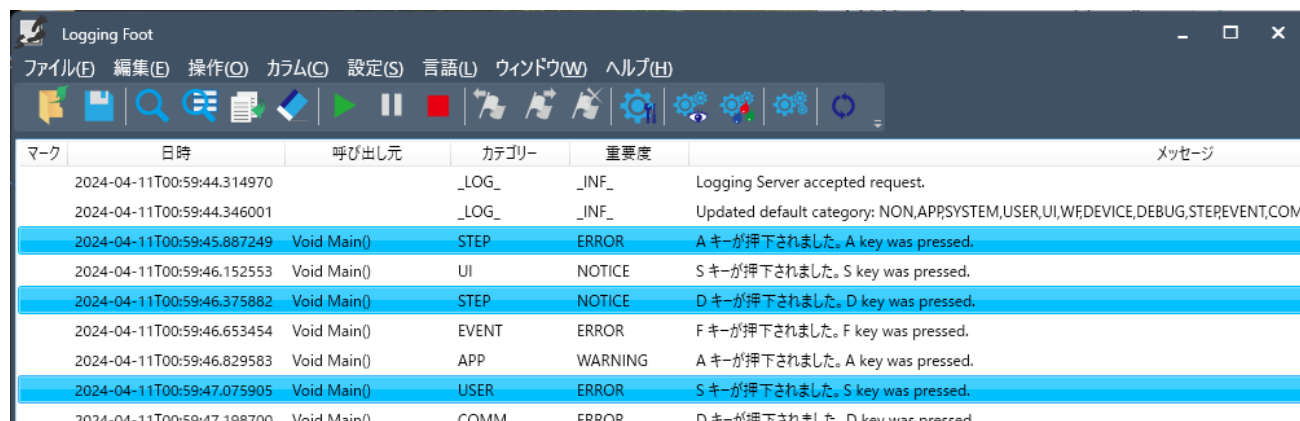
2.7.1.1. 範囲選択

選択する範囲の開始行を選択後、Shift キーを押下しながら範囲の終了行を選択します。



2.7.1.2. 複数行選択

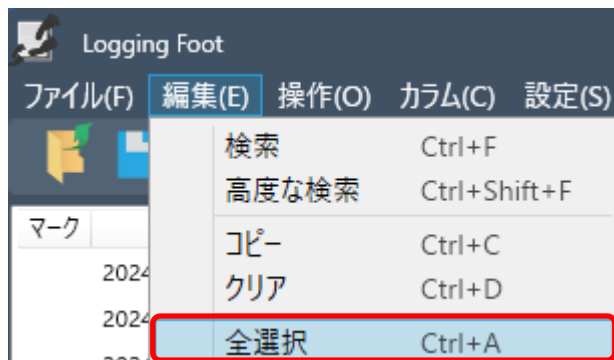
Ctrl キーを押下しながら任意の行を選択します。



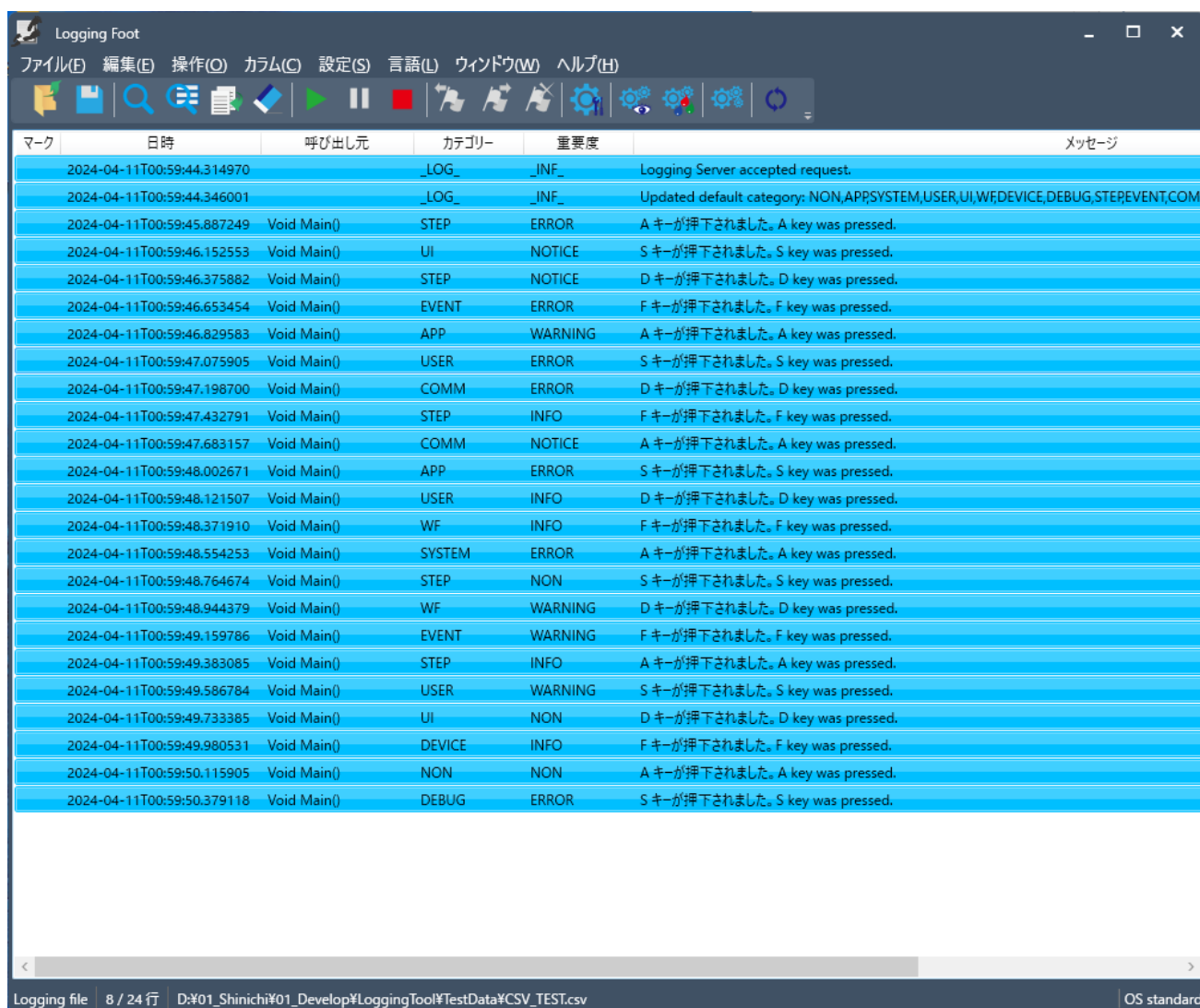


2.7.1.3. 全選択

任意のログの行を選択した状態で[メインメニュー 編集>全選択]を選択するか、又は Ctrl+A キーを押下します。




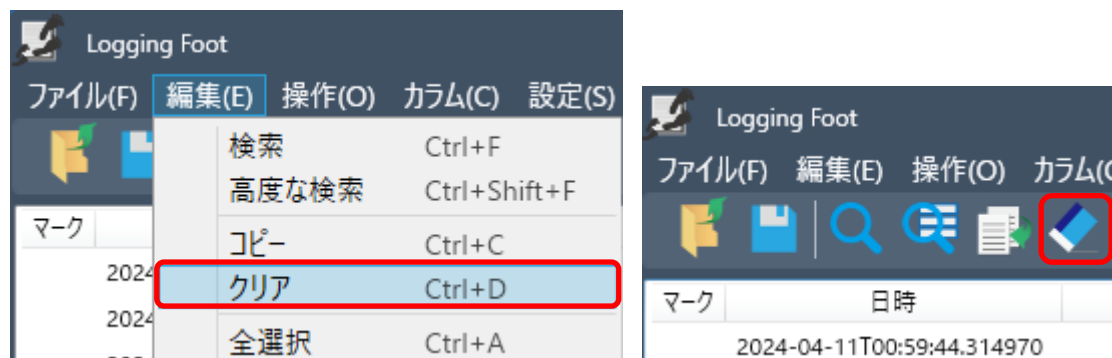
下図は全選択した状態を示します。






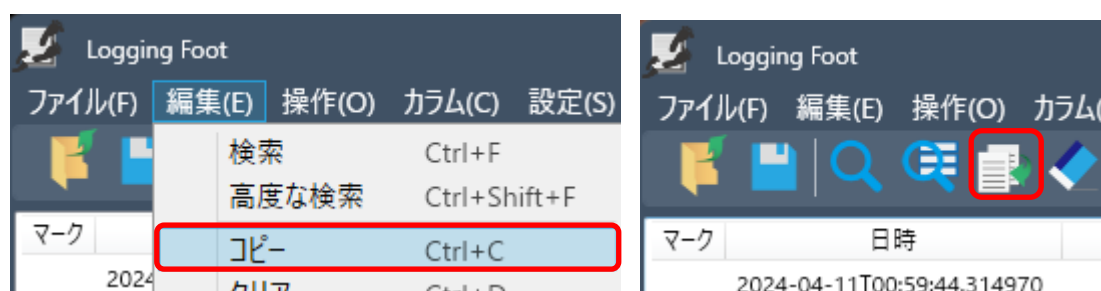
2.7.1.4. クリア

メインメニュー [編集(E)>クリア]を選択又はツールバーアイコン  を選択することによりロギングビュー内全行のログが消去されます。

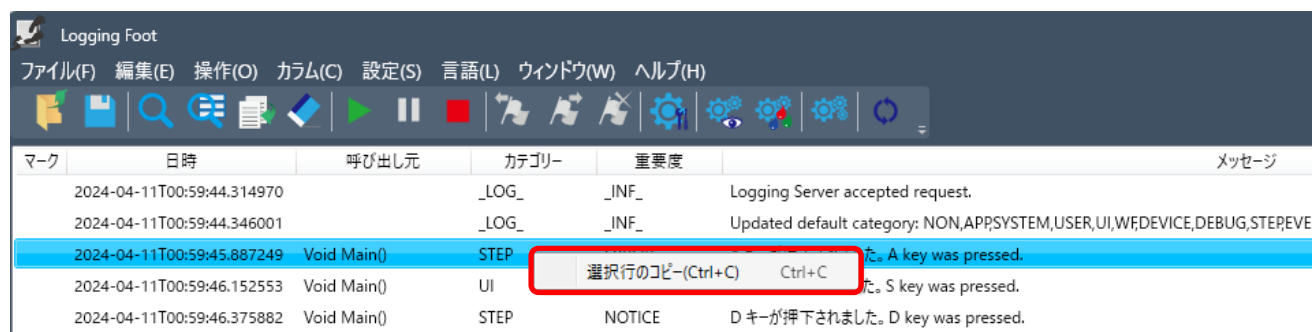


2.7.2. ログの行コピー

ログの行を選択した状態(複数行の選択も可)で メインメニュー [編集(E)>コピー]を選択又はツールバーアイコン  を選択することによりコピーされます。




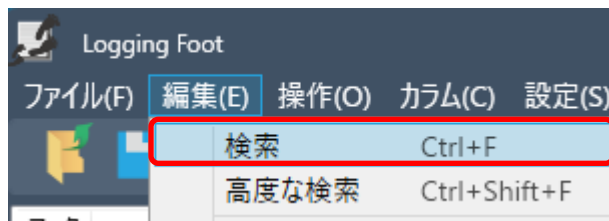
選択したログ行の上でマウス右クリックメニューを開き、[選択行のコピー]メニューを選択することでもコピー可能です。





2.8. ログを検索する

メインメニュー [編集(E)>検索]を選択又はツールバーアイコン  を選択することにより検索ダイアログが開かれます。



2.8.1. 検索ウィンドウの説明

ログ検索は、検索対象に指定されているカラム内の文字列と入力した検索文字列の厳密なマッチングが行われます。半角や大文字小文字は別文字として区別されます。





GUI	説明
検索文字列入力ボックス	検索したい文字列を入力します。 ※ 2.8.2 検索文字列入力方法 を参照
検索履歴ドロップダウン	直近の検索履歴が表示・選択できます。最大20件まで保持されます。
検索ボタン	ロギングビュー(2.1 メイン画面の見方)の現在選択位置から上方向(前へボタン)又は下方向(次へボタン)に検索を行います。 オプション設定の「検索条件に含めるカラム」で選択したカラムが検索対象になります。ヒットした行はハイライト表示されます。
高度な検索ボタン	より複雑な条件を指定して検索するためのウィンドウを開きます。※ 2.9 高度な検索を行う を参照
オプション設定	「検索条件に含めるカラム」及び「検索文字区切り記号」の設定を拡張表示又は非表示します。 ※ 2.8.3 オプション設定を使用したログ検索 を参照

2.8.2. 検索文字列入力方法

メッセージカラム内に A key was の文字列が出力されているログを検索する場合、検索文字列入力ボックスに A key was と入力してもヒットしません。これは、前後の「A キーが押下されました。」や「pressed.」の文字列に挟まれているためです。

🔍 検索...
✕

検索文字

A key was

高度な検索

< 前へ

次へ >

ヒットしない例

日時	呼び出し元	カテゴリー	重要度	メッセージ
2024-04-11T00:59:44.314970		_LOG_	_INF_	Logging Server accepted request.
2024-04-11T00:59:44.346001		_LOG_	_INF_	Updated default category: NON,APPSYSTEM,USER,UI,WFE,DEVICE,DEBUG,STEREVENT,COMM,
2024-04-11T00:59:45.887249	Void Main()	STEP	ERROR	A キーが押下されました。A key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.152553	Void Main()	UI	NOTICE	S キーが押下されました。S key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.375882	Void Main()	STEP	NOTICE	D キーが押下されました。D key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.653454	Void Main()	EVENT	ERROR	F キーが押下されました。F key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.829583	Void Main()	APP	WARNING	A キーが押下されました。A key was pressed.
2024-04-11T00:59:47.075905	Void Main()	USER	ERROR	S キーが押下されました。S key was pressed.
2024-04-11T00:59:47.198700	Void Main()	COMM	ERROR	D キーが押下されました。D key was pressed.
2024-04-11T00:59:47.432791	Void Main()	STEP	INFO	F キーが押下されました。F key was pressed.



Viewer application Operation guide

A key was をヒットさせるには前後にアスタリスク*を指定し、次のように入力します。

検索...

検索文字

A key was

高度な検索

< 前へ

次へ >

ヒットする例

下図のようにヒットします。

日時	呼び出し元	カテゴリ	重要度	メッセージ
2024-04-11T00:59:44.314970		_LOG_	_INF_	Logging Server accepted request.
2024-04-11T00:59:44.346001		_LOG_	_INF_	Updated default category: NON,APP,SYSTEM,USER,UI,Wf,DEVICE,DEBUG,STEP,EVENT,COMM,
2024-04-11T00:59:45.887249	Void Main()	STEP	ERROR	A キーが押下されました。A key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.152553	Void Main()	UI	NOTICE	S キーが押下されました。S key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.375882	Void Main()	STEP	NOTICE	D キーが押下されました。D key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.653454	Void Main()	EVENT	ERROR	F キーが押下されました。F key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.829583	Void Main()	APP	WARNING	A キーが押下されました。A key was pressed.
2024-04-11T00:59:47.075905	Void Main()	USER	ERROR	S キーが押下されました。S key was pressed.
2024-04-11T00:59:47.108700	Void Main()	COMM	ERROR	D キーが押下されました。D key was pressed.

2.8.3. オプション設定を使用したログ検索

オプション設定を使用することにより詳細な検索条件を設定できます。

検索...

検索文字

高度な検索

< 前へ

次へ >

オプション設定

検索条件に含めるカラム

☐ ホスト名 ☐ 日時 ☐ カテゴリ

☐ プロセス名 ☐ 呼び出し元 ☐ 重要度

☐ プロセスID ☒ メッセージ

検索文字区切り記号

OR 条件区切り | ワイルドカード *

AND 条件区切り &

閉じる



GUI	説明
検索条件に含めるカラム	チェックが入っているカラムが検索対象となります。 これは、 2.6 カラムの表示/非表示を行う により非表示となっている場合でも検索対象となります。 ※ 2.8.3.1 検索条件に含めるカラム を参照。
検索文字区切り記号	検索文字列入力ボックスには、条件区切り文字及びワイルドカードを使用できます。 これら条件区切り記号やワイルドカード記号は任意の文字に変更可能です。 ※ 2.8.3.2 検索文字区切り記号 を参照。

2.8.3.1. 検索条件に含めるカラム

チェックを入れたカラム内の文字列が検索対象に追加されます。デフォルトではメッセージのカラムのみが検索対象になっています。

オプション設定

検索条件に含めるカラム

- ☐ ホスト名
- ☐ プロセス名
- ☐ プロセスID
- ☐ 日時
- ☐ 呼び出し元
- ☒ カテゴリ
- ☐ 重要度
- ☒ メッセージ

[2.8.2 検索文字列入力方法](#) の検索条件に対しさらにカテゴリが APP の場合にヒットする条件を設定します。この場合、オプション設定の検索条件に含めるカラムでカテゴリにチェックを入れて次のように入力します。

検索...

検索文字

APP&*A key was*

高度な検索 < 前へ 次へ >

オプション設定

検索条件に含めるカラム

- ☐ ホスト名
- ☐ プロセス名
- ☐ プロセスID
- ☐ 日時
- ☐ 呼び出し元
- ☒ カテゴリ
- ☐ 重要度
- ☒ メッセージ



下図のようにヒットするようになります。

日時	呼び出し元	カテゴリ	重要度	メッセージ
2024-04-11T00:59:44.314970		_LOG_	_INF_	Logging Server accepted request.
2024-04-11T00:59:44.346001		_LOG_	_INF_	Updated default category: NON,APPSYSTEM,USER,UI,WFDDEVICE,DEBUG,STREVENT,COMM,
2024-04-11T00:59:45.887249	Void Main()	STEP	ERROR	A キーが押下されました。A key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.152553	Void Main()	UI	NOTICE	S キーが押下されました。S key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.375882	Void Main()	STEP	NOTICE	D キーが押下されました。D key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.653454	Void Main()	EVENT	ERROR	F キーが押下されました。F key was pressed.
2024-04-11T00:59:46.829583	Void Main()	APP	WARNING	A キーが押下されました。A key was pressed.
2024-04-11T00:59:47.075905	Void Main()	USER	ERROR	S キーが押下されました。S key was pressed.

2.8.3.2. 検索文字区切り記号

検索文字列入力ボックスには、条件区切り文字及びワイルドカードを使用できます。

これら条件区切り記号やワイルドカード記号は任意の文字に変更可能です。

検索文字区切り記号

OR 条件区切り		ワイルドカード	*
AND 条件区切り	&		

<ワイルドカード>

ワイルドカードが指定された部分はどの文字に対してもマッチングすることを意味します。

例えば「A キーが押下されました。A key was pressed.」のログを検索する場合、下図の入力文字ではヒットしません。「A key was」の前に「A キーが押下されました。」の文字列があり、後ろには「pressed.」の文字列があるためです。

検索...

検索文字

A key was

高度な検索

< 前へ

次へ >

これをヒットさせるようにするには、前後にワイルドカード記号を設定します。

検索...

検索文字

A key was

高度な検索

< 前へ

次へ >



<OR 条件区切りと AND 条件区切り>

検索文字列入力ボックスに OR 条件区切り記号と AND 条件区切り記号の両方が使用されている場合、AND 区切り記号が優先的に評価されます。

下図のように指定した場合、ヒットするログの条件は下記3パターンになります。


- ① APP が含まれる行
- ② EVENT が含まれる行
- ③ STEP と*A key was* が含まれる行

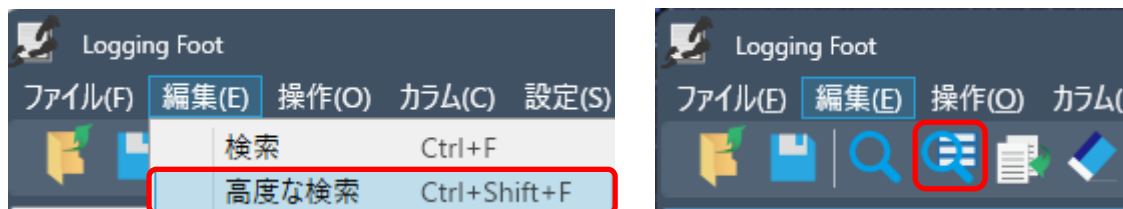
下図に示す行がヒットします。

マーク	日時	呼び出し元	カテゴリ	重要度	
	2024-04-11T00:59:44.314970		_LOG_	_INF_	Logging Server accepted request.
	2024-04-11T00:59:44.346001		_LOG_	_INF_	Updated default category: NON,APPSYSTEM,USER,
	2024-04-11T00:59:45.887249	Void Main()	STEP	ERROR	A キーが押下されました。A key was pressed.
	2024-04-11T00:59:46.152553	Void Main()	UI	NOTICE	S キーが押下されました。S key was pressed.
	2024-04-11T00:59:46.375882	Void Main()	STEP	NOTICE	D キーが押下されました。D key was pressed.
	2024-04-11T00:59:46.653454	Void Main()	EVENT	ERROR	F キーが押下されました。F key was pressed.
	2024-04-11T00:59:46.829583	Void Main()	APP	WARNING	A キーが押下されました。A key was pressed.
	2024-04-11T00:59:47.075905	Void Main()	USER	ERROR	S キーが押下されました。S key was pressed.
	2024-04-11T00:59:47.198700	Void Main()	COMM	ERROR	D キーが押下されました。D key was pressed.
	2024-04-11T00:59:47.432791	Void Main()	STEP	INFO	F キーが押下されました。F key was pressed.
	2024-04-11T00:59:47.683157	Void Main()	COMM	NOTICE	A キーが押下されました。A key was pressed.
	2024-04-11T00:59:48.002671	Void Main()	APP	ERROR	S キーが押下されました。S key was pressed.
	2024-04-11T00:59:48.121507	Void Main()	USER	INFO	D キーが押下されました。D key was pressed.
	2024-04-11T00:59:48.371910	Void Main()	WF	INFO	F キーが押下されました。F key was pressed.
	2024-04-11T00:59:48.554253	Void Main()	SYSTEM	ERROR	A キーが押下されました。A key was pressed.
	2024-04-11T00:59:48.764674	Void Main()	STEP	NON	S キーが押下されました。S key was pressed.



2.9. 高度な検索を行う

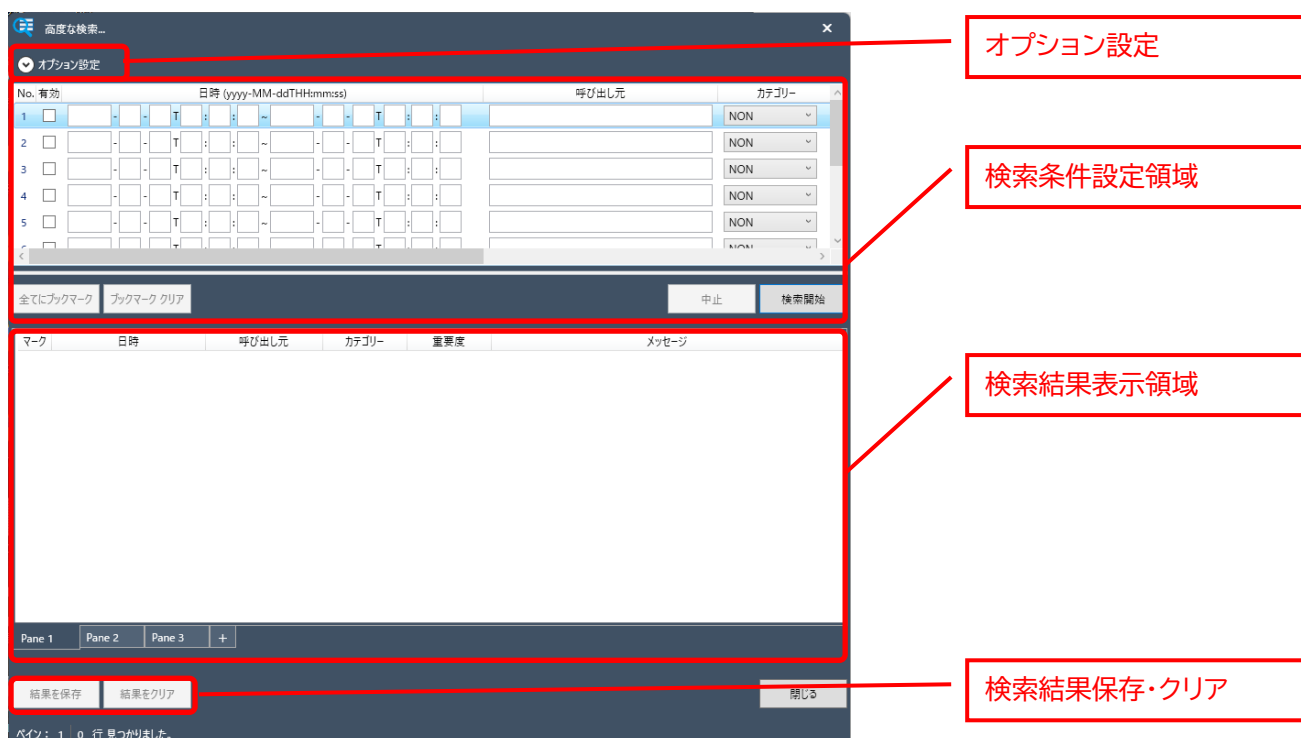
メインメニュー [編集(E)>高度な検索]を選択又はツールバーアイコン  を選択する又は検索ダイアログの [高度な検索] ボタンを押下することにより高度な検索を行うためのウィンドウが開かれます。



検索ダイアログから高度な検索ウィンドウを開く場合



2.9.1. 高度な検索ウィンドウの説明





Viewer application Operation guide

ログ検索は、[2.8.1 検索ウィンドウの説明](#)と同様に検索対象に指定されているカラム内の文字列と入力した検索文字列の厳密なマッチングが行われます。半角・全角や大文字・小文字は別文字として区別されます。

GUI	説明
オプション設定	検索条件設定領域における詳細な設定項目を拡張表示又は非表示します。 ※ 2.9.2 オプション設定 を参照
検索条件設定領域	カラムごとに検索条件を指定できます。 No.1～No.10 の最大10件まで設定可能です。 ※ 2.9.3 検索条件設定領域 を参照
検索結果表示領域	検索条件にヒットした行を一覧表示します。 表示は選択されている Pane タブに対して行われます。 Pane タブは追加又は削除ができます。 ※ 2.9.4 検索結果表示領域 を参照
結果を保存 ボタン	選択されている Pane の検索結果を保存します。 下記の形式で保存できます。 ・ CSV 形式ログファイル(.csv) ・ Logging Foot 専用ファイル(.ftlog) ※ 2.4 ロギングファイルを保存又は読み込む 参照
結果をクリア ボタン	選択されている Pane の検索結果を消去します。

2.9.2. オプション設定

[オプション設定]をクリックすると下図のような設定項目が開かれます。

高度な検索...

オプション設定

カラム間一致条件

Partial match

検索文字区切り記号

OR 条件区切り |

AND 条件区切り &

ワイルドカード *

カラムの表示

☐ ホスト名
 ☒ 日時
 ☒ カテゴリ

☐ プロセス名
 ☒ 呼び出し元
 ☒ 重要度

☐ プロセスID
 ☒ メッセージ

既定値に戻す

No.	有効	日時 (yyyy-MM-ddTHH:mm:ss)	呼び出し元	カテゴリ
1	<input checked="" type="checkbox"/>	- - T : : 48 ~ - - T : : 49		NON
2	<input type="checkbox"/>	- - T : : ~ - - T : :		NON
3	<input type="checkbox"/>	- - T : : ~ - - T : :		NON
4	<input type="checkbox"/>	- - T : : ~ - - T : :		NON



GUI	説明
カラム間一致条件	<p>カラム同士の結合方法を OR 又は AND から選択するためのオプションです。例えば、カテゴリーカラムに「STEP」、重要度カラムに「INFO」のように設定がある場合、下記のように振る舞います。</p> <ul style="list-style-type: none"> Partial match : カテゴリーが「STEP」又は重要度が「INFO」の行がマッチします。 Exact match : カテゴリーが「STEP」でかつ重要度が「INFO」の行がマッチします。
検索文字区切り記号	<p>検索文字列入力ボックスには、条件区切り文字及びワイルドカードを使用できます。</p> <p>これら条件区切り記号やワイルドカード記号は任意の文字に変更可能です。</p>
カラムの表示	<p>検索条件設定領域及び検索結果表示領域のカラムを表示又は非表示します。非表示のカラムも検索対象に含まれます。</p>
既定値に戻す ボタン	<p>オプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号]項目をアプリケーション固有のデフォルト値に設定します。</p>

2.9.3. 検索条件設定領域

カラムごとに検索条件を設定できます。

入力ボックスを空白にするとそのカラムは検索対象から除外されます。

また、日時カラム以外を入力ボックスのカラムについては条件区切り文字及びワイルドカードが使用できます。

※ 日時カラムの入力ボックスに数値以外を入力した場合、空白とみなし検索対象から除外されます。



Viewer application Operation guide

(下図は、上図を右側にスクロールしたものです。)

GUI	説明
No カラム	検索条件を識別する番号です。 検索条件は No.1～10まで設定可能です。
有効 カラム	チェックを入れることにより、その行は検索対象になります。
ホスト名 カラム	検索対象の PC 名を入力します。
プロセス名 カラム	検索対象のプロセス名を入力します。
PID カラム	検索対象のプロセス ID を入力します。
日時 カラム	検索対象のログ日時を入力します。年月日時分秒まで指定できます。(秒の小数点部は指定不可)
呼び出し元 カラム	検索対象の呼び出し元関数又はメソッド名を入力します。
カテゴリー カラム	ドロップダウンにより検索対象とするカテゴリーを選択します。NON を選択すると検索対象から除外されます。
重要度 カラム	ドロップダウンにより検索対象とする重要度を選択します。NON を選択すると検索対象から除外されます。
メッセージ カラム	検索対象のメッセージを入力します。
検索開始 ボタン	検索条件設定領域で設定した内容で検索を開始します。 検索中は画面の操作はできなくなります。
中止 ボタン	検索を中止します。



2.9.4. 検索結果表示領域

検索結果は、Pane ごとに保持でき、最大 Pane10 までの複数を保持できます。

GUI	説明
検索結果表示領域	検索条件にヒットしたログを一覧表示します。 本画面で選択してハイライトされた行は、メイン画面のロギングビューにも同様にハイライトされます。
全てにブックマーク ボタン	検索結果全行のマークカラムにブックマークを設定します。本画面で設定したブックマークは、メイン画面(2.1 メイン画面の見方)のマークカラムにも反映されます。
ブックマーククリア ボタン	設定したブックマークを全て消去します。メイン画面に反映されたブックマークも全て消去されます。
ブックマーク表示カラム	クリックすることによりブックマークを設定又は削除します。設定又は削除したブックマークはメイン画面にも反映されます。
Pane タブ	検索結果のログを出力する Pane を選択します。
Pane タブ オンマウス	Pane タブにマウスカーソルを合わせると × ボタンが表示されます。ボタンを押下するとその Pane は削除されます。Pane1は削除できません。
Pane タブ追加ボタン	Pane を追加します。 最大で Pane10まで追加可能です。




2.10. ロギングの停止・再開を行う

本アプリケーションは起動するとロギング状態は [Logging] となっており、これはクライアントからのログ出力受け付け可能な状態です。クライアント側でログが出力されるとリアルタイムで [2.1 メイン画面の見方](#) に示すロギングビューに表示されます。

ロギングは一時停止、停止、再開の各操作を行うことができます。

2.10.1. ロギングの一時停止


[2.1 メイン画面の見方](#) に示すロギング状態が [Logging] の場合に、ロギングを一時停止することができます。一時停止はロギングの表示更新を停止しますが、クライアントプロセスからの出力ログは受け取りますのでログファイルへの出力は継続して行われます。

一時停止するには、メインメニュー [操作(O) > 一時停止] を選択又ツールバーアイコン  を選択します。ロギング状態は [Pausing] になります。



2.10.2. ロギングの停止

[2.1 メイン画面の見方](#) に示すロギング状態が [Logging] の場合に、ロギングを停止することができます。停止はクライアントプロセスからの出力ログ受け取りを停止しますので一時停止とは異なり、ログファイルへの出力も停止されます。


停止するには、メインメニュー [操作(O) > 停止] を選択又はツールバーアイコン  を選択します。ロギング状態は [Suspend] となります。





2.10.3. ロギングの再開

2.1 メイン画面の見方 に示すロギング状態が [Pausing]、[Suspend] 及び[Logging File] の場合にロギングを再開することができます。

再開するには、メインメニュー [操作(O)>再開]を選択又はツールバーアイコン  を選択します。

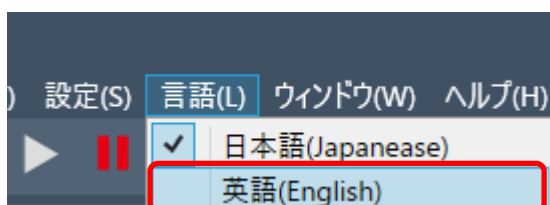


2.11. アプリケーションの表示言語を変更する

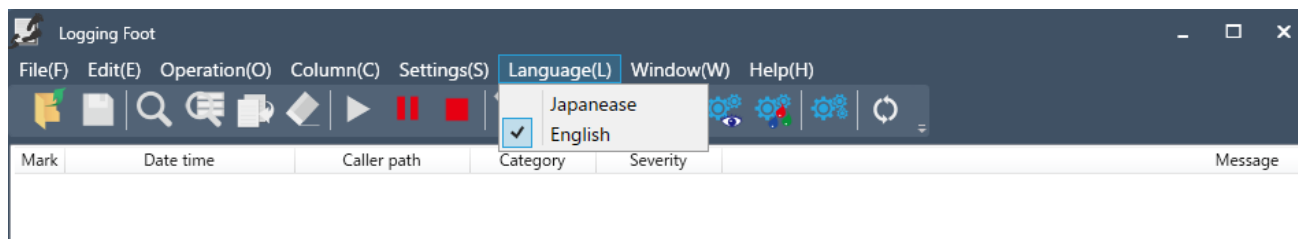
本アプリケーションは、日本語及び英語の表記に対応しています。

アプリケーションインストール後の初回起動時で、かつ [2.14.4.2 セットアップパラメーターファイル](#) による事前設定が無い場合は、OS ロケール設定により、日本語ロケールの場合は日本語、それ以外は英語で起動します。

メインメニュー [言語(L)>英語]を選択することによりアプリケーションの表記を英語にすることができます。




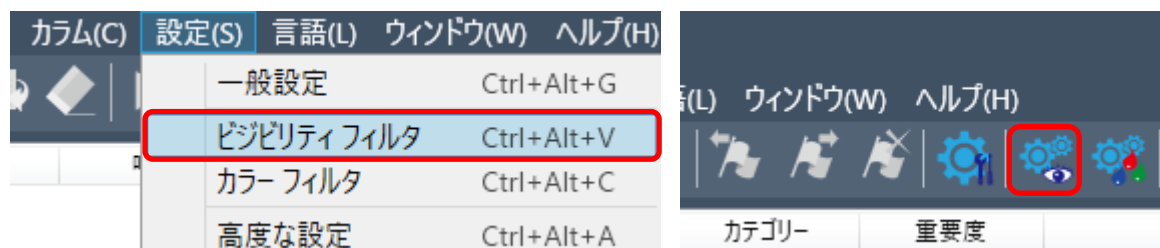
下図は英語が選択された状態。



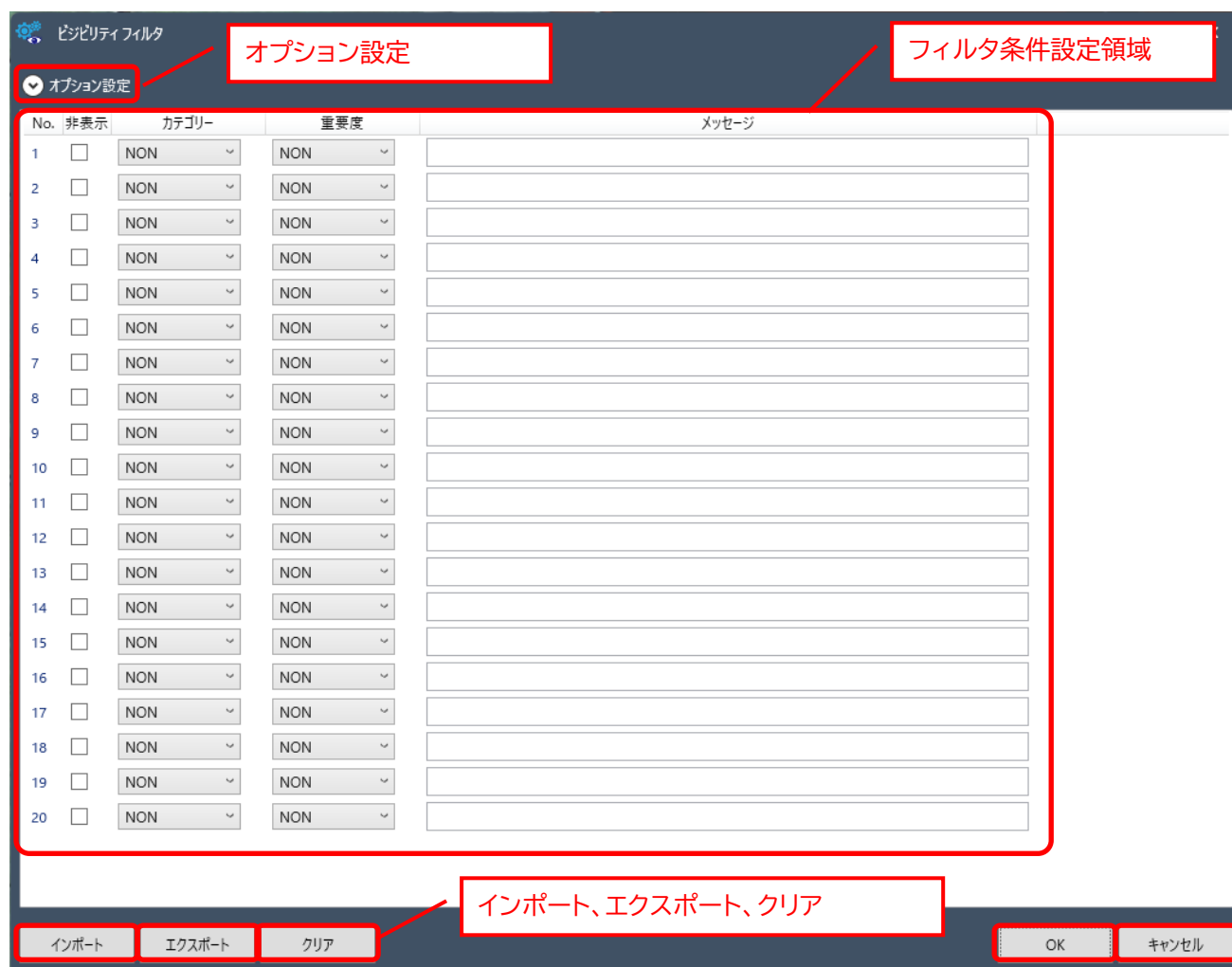


2.12. ビジビリティフィルタを使用する

メインメニュー [設定(S)>ビジビリティフィルタ]を選択又はツールバーアイコン  を選択することによりビジビリティフィルタ設定ウィンドウが開かれます。ビジビリティフィルタは、条件にマッチしたメイン画面ロギングビューの行を非表示にします。



2.12.1. ビジビリティフィルタ設定ウィンドウの説明





GUI	説明
オプション設定	フィルタ条件設定領域における詳細な設定項目を拡張表示又は非表示します。 ※ 2.12.2 オプション設定 を参照
フィルタ条件設定領域	カラムごとにフィルタ条件を指定できます。 No.1～No.20 の最大 20件まで設定可能です。 ※ 2.12.3 フィルタ条件設定領域 を参照
インポート ボタン	エクスポートで保存したビジビリティフィルタ設定ファイル(.vfcnd)を読み込みます。
エクスポート ボタン	フィルタ条件設定領域で設定した内容をビジビリティフィルタ設定ファイル(.vfcnd)として保存します。
クリア ボタン	フィルタ条件設定領域の設定内容を消去します。 [OK]ボタンで本ウィンドウを閉じた場合、設定内容の消去が確定します。
OK ボタン	フィルタ条件設定領域の設定内容及びオプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号]の変更内容を確定してウィンドウを閉じます。
キャンセル ボタン	フィルタ条件設定領域の内容及びオプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号] 項目の変更内容を破棄してウィンドウを閉じます。

2.12.2. オプション設定

[オプション設定]をクリックすると下図のような設定項目が開かれます。



GUI	説明
カラム間一致条件	カラム同士の結合方法を OR 又は AND から選択するためのオプションです。例えば、カテゴリーカラムに「STEP」、重要度カラムに「INFO」のように設定がある場合、下記のように振る舞います。 <ul style="list-style-type: none">・ Partial match : カテゴリーが「STEP」又は重要度が「INFO」の行がマッチします。・ Exact match : カテゴリーが「STEP」でかつ重要度が「INFO」の行がマッチします。
検索文字区切り記号	下記に示す入力ボックスには、条件区切り文字及びワイルドカードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none">・ホスト名・プロセス名・プロセス ID・呼び出し元・メッセージ これら条件区切り記号やワイルドカード記号は任意の文字に変更可能です。
カラムの表示	フィルタ条件設定領域のカラムを表示又は非表示します。 非表示になったカラムも検索対象に含まれます。
既定値に戻す ボタン	オプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号]項目をアプリケーション固有のデフォルト値に設定します。

2.12.3. フィルタ条件設定領域

カラムごとにフィルタ条件を設定できます。

入力ボックスを空白にするとそのカラムはフィルタ対象から除外されます。

また、[2.12.2 オプション設定](#) の検索文字区切り記号に示す入力ボックスについては条件区切り文字及びワイルドカードが使用できます。

※ 日時カラムの入力ボックスに数値以外を入力した場合は、空白とみなされフィルタ対象から除外されます。



Viewer application Operation guide

No.	非表示	ホスト名	プロセス名	PID	日時 (yyyy-MM-ddTHH:mm:ss)	呼び出し元
1	<input type="checkbox"/>					
2	<input type="checkbox"/>					
3	<input type="checkbox"/>					
4	<input type="checkbox"/>					
5	<input type="checkbox"/>					


(下図は、上図を右側にスクロールしたものです。)

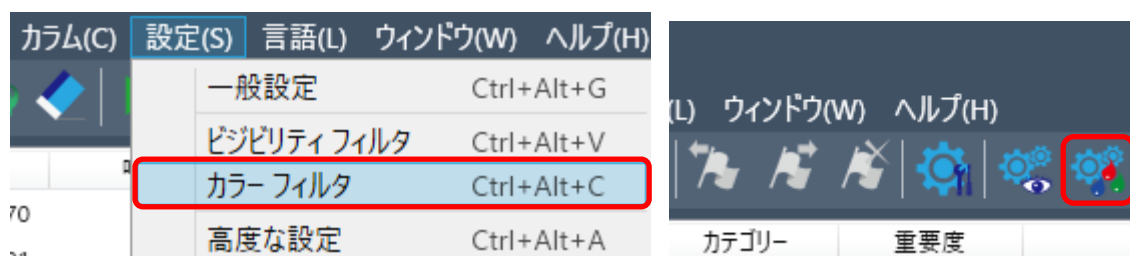
呼び出し元	カテゴリー	重要度	メッセージ
	NON	NON	
	NON	NON	
	NON	NON	
	NON	NON	
	NON	NON	

GUI	説明
No カラム	フィルタ条件を識別する番号です。 フィルタ条件は No.1～20まで設定可能です。
非表示 カラム	チェックを入れることにより、その行はフィルタ対象になります。
ホスト名 カラム	フィルタ対象の PC 名を入力します。
プロセス名 カラム	フィルタ対象のプロセス名を入力します。
PID カラム	フィルタ対象のプロセス ID を入力します。
日時 カラム	フィルタ対象のログ日時を入力します。年月日時分秒まで指定できます。(秒の小数点部は指定不可)
呼び出し元 カラム	フィルタ対象の呼び出し元関数又はメソッド名を入力します。
カテゴリー カラム	ドロップダウンによりフィルタ対象とするカテゴリーを選択します。NON を選択するとフィルタ対象から除外されます。
重要度 カラム	ドロップダウンによりフィルタ対象とする重要度を選択します。NON を選択するとフィルタ対象から除外されます。
メッセージ カラム	フィルタ対象のメッセージを入力します。

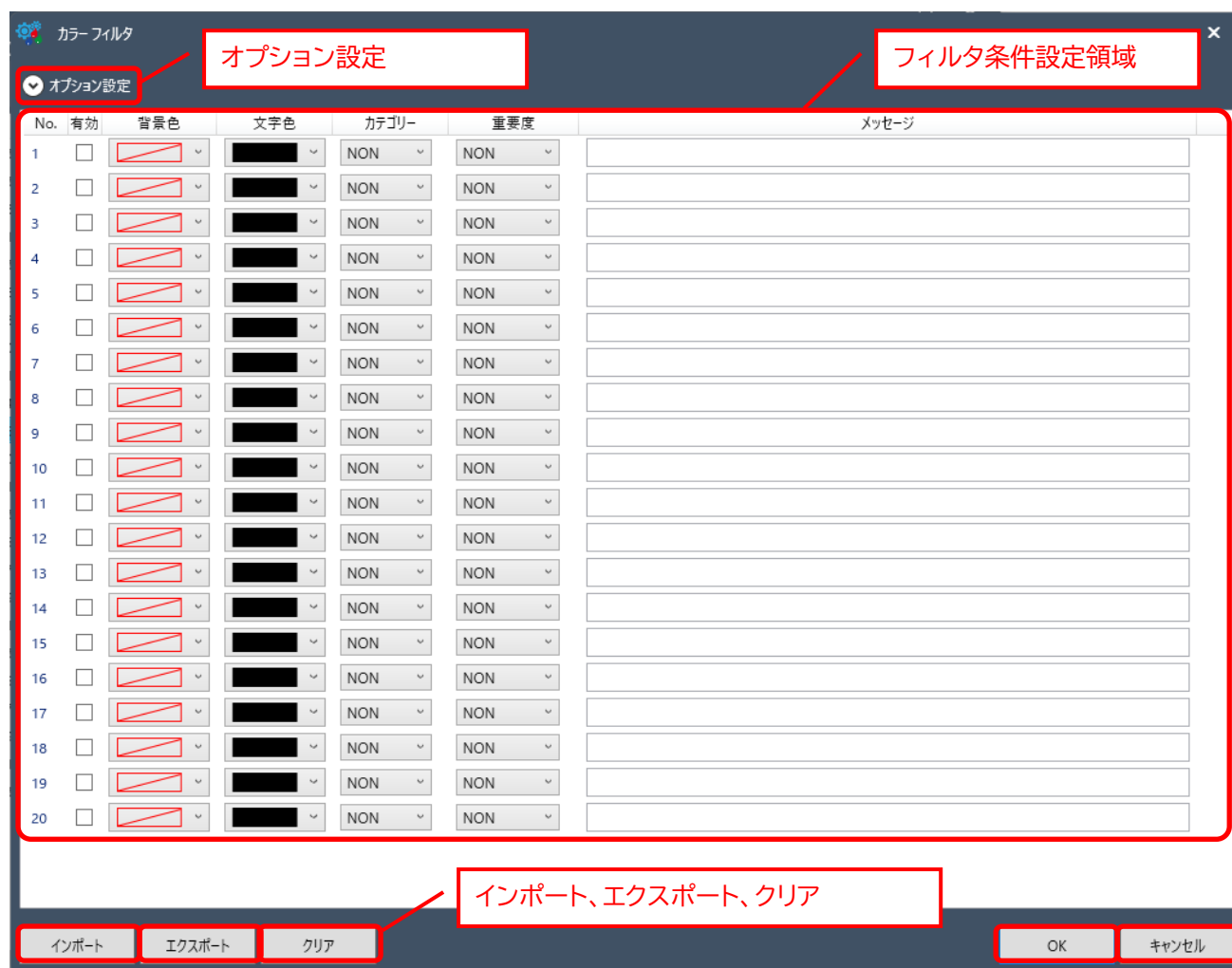


2.13. カラーフィルタを使用する

メインメニュー [設定(S)>カラーフィルタ]を選択又はツールバーアイコン  を選択することによりカラーフィルタ設定ウィンドウが開かれます。カラーフィルタは、条件にマッチしたメイン画面ロギングビューの行を設定したカラーで表示します。



2.13.1. カラーフィルタ設定ウィンドウの説明





GUI	説明
オプション設定	フィルタ条件設定領域における詳細な設定項目を拡張表示又は非表示します。 ※ 2.13.2 オプション設定 を参照
フィルタ条件設定領域	カラムごとにフィルタ条件を指定できます。 No.1～No.20 の最大 20件まで設定可能です。 ※ 2.13.3 フィルタ条件設定領域 を参照
インポート ボタン	エクスポートで保存したカラーフィルタ設定ファイル(.cfcnd)を読み込みます。
エクスポート ボタン	フィルタ条件設定領域で設定した内容をカラーフィルタ設定ファイル(.cfcnd)として保存します。
クリア ボタン	フィルタ条件設定領域の設定内容を消去します。 [OK]ボタンで本ウィンドウを閉じた場合、設定内容の消去が確定します。
OK ボタン	フィルタ条件設定領域の設定内容及びオプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号]の変更内容を確定してウィンドウを閉じます。
キャンセル ボタン	フィルタ条件設定領域の内容及びオプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号] 項目の変更内容を破棄してウィンドウを閉じます。

2.13.2. オプション設定

[オプション設定]をクリックすると下図のような設定項目が開かれます。

カラーフィルタ

オプション設定

カラム間一致条件: Partial match

検索文字区切り記号: OR 条件区切り |, AND 条件区切り &, ワイルドカード *

カラムの表示:

- ☐ ホスト名
- ☐ プロセス名
- ☐ プロセスID
- ☐ 日時
- ☐ 呼び出し元
- ☒ カテゴリー
- ☒ 重要度
- ☒ メッセージ

既定値に戻す

No.	有効	背景色	文字色	カテゴリー	重要度	メッセージ
1	<input type="checkbox"/>			NON	NON	
2	<input type="checkbox"/>			NON	NON	
3	<input type="checkbox"/>			NON	NON	
4	<input type="checkbox"/>			NON	NON	
5	<input type="checkbox"/>			NON	NON	

GUI	説明
カラム間一致条件	<p>カラム同士の結合方法を OR 又は AND から選択するためのオプションです。例えば、カテゴリーカラムに「STEP」、重要度カラムに「INFO」のように設定がある場合、下記のように振る舞います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Partial match : カテゴリーが「STEP」又は重要度が「INFO」の行がマッチします。 ・ Exact match : カテゴリーが「STEP」でかつ重要度が「INFO」の行がマッチします。
検索文字区切り記号	<p>下記に示す入力ボックスには、条件区切り文字及びワイルドカードを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスト名 ・プロセス名 ・プロセス ID ・呼び出し元 ・メッセージ <p>これら条件区切り記号やワイルドカード記号は任意の文字に変更可能です。</p>
カラムの表示	<p>フィルタ条件設定領域のカラムを表示/非表示します。非表示になったカラムも検索対象に含まれます。</p>
既定値に戻す ボタン	<p>オプション設定の[カラム間一致条件]、[検索文字区切り記号]項目をアプリケーション固有のデフォルト値に設定します。</p>


2.13.3. フィルタ条件設定領域

カラムごとにフィルタ条件を設定できます。


入力ボックスを空白にするとそのカラムはフィルタ対象から除外されます。











また、2.13.2 オプション設定 の検索文字区切り記号に示す入力ボックスについては条件区切り文字及びワイルドカードが使用できます。

※ 日時カラムの入力ボックスに数値以外を入力した場合は、空白とみなされフィルタ対象から除外されます。


カラーフィルタ

×




オプション設定

No.	有効	背景色	文字色	ホスト名	プロセス名	PID	日時 (yyyy-MM-ddTHH:mm:ss)
1	<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/> ~ <input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/>
2	<input checked="" type="checkbox"/>						<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/> ~ <input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/>
3	<input type="checkbox"/>						<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/> ~ <input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/>
4	<input type="checkbox"/>						<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/> ~ <input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/>
5	<input type="checkbox"/>						<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/> ~ <input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> T <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/>




Viewer application Operation guide

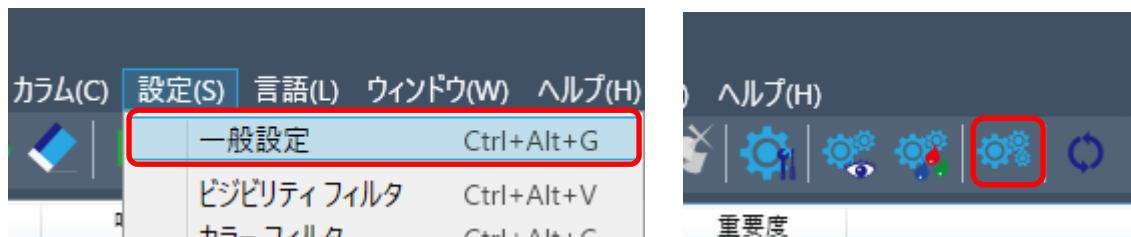
(下図は、上図を右側にスクロールしたものです。)

GUI	説明
No カラム	フィルタ条件を識別する番号です。 フィルタ条件は No.1～20まで設定可能です。
有効 カラム	チェックを入れることにより、その行はフィルタ対象になります。
背景色 カラム	ログ行の背景色を設定します。  を選択した場合は無色となります。
文字色 カラム	ログ行の文字色を設定します。  を選択した場合は無色となります。 (文字が見えなくなります。)
ホスト名 カラム	フィルタ対象の PC 名を入力します。
プロセス名 カラム	フィルタ対象のプロセス名を入力します。
PID カラム	フィルタ対象のプロセス ID を入力します。
日時 カラム	フィルタ対象のログ日時を入力します。年月日時分秒まで指定できます。(秒の小数点部は指定不可)
呼び出し元 カラム	フィルタ対象の呼び出し元関数又はメソッド名を入力します。
カテゴリー カラム	ドロップダウンによりフィルタ対象とするカテゴリーを選択します。NON を選択するとフィルタ対象から除外されます。
重要度 カラム	ドロップダウンによりフィルタ対象とする重要度を選択します。NON を選択するとフィルタ対象から除外されます。
メッセージ カラム	フィルタ対象のメッセージを入力します。



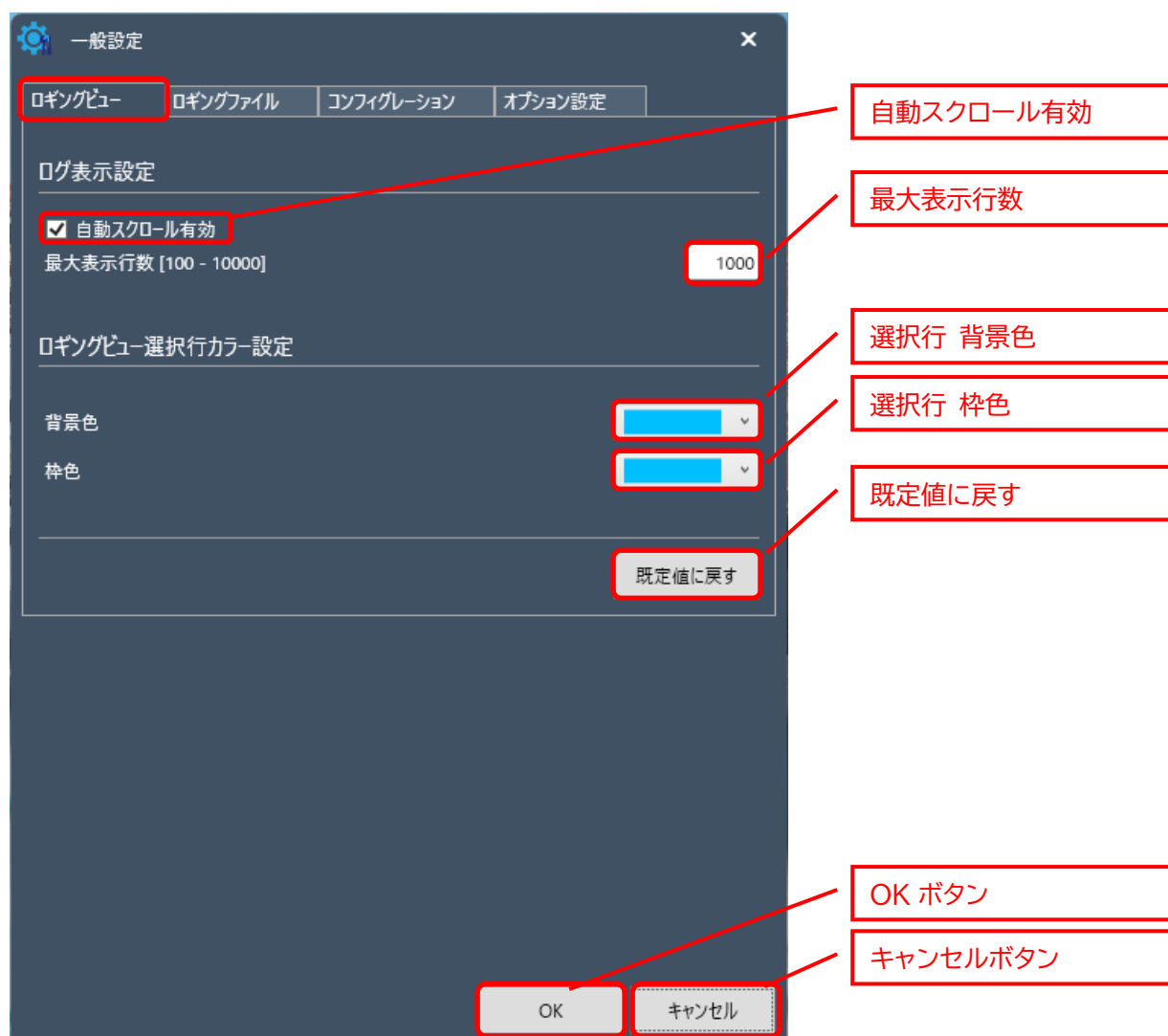
2.14. 一般的な設定を行う

メインメニュー [設定(S)>一般設定]を選択又はツールバーアイコン  を選択することにより本アプリケーションの様々な設定を行うための一般設定ウィンドウが開かれます。


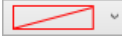


2.14.1. 一般設定 ログインビュー設定

ログインビュータブを選択することにより、2.1 メイン画面の見方 に示すログインビューに関する設定項目を表示します。





GUI	説明
ログ表示設定 自動スクロール有効	ロギングビューの自動スクロールを設定します。 チェックボックスを ON にすると常にロギングビュー最終行が表示されるように自動でスクロールします。
ログ表示設定 最大表示行数	ロギングビューに表示される最大表示行数を設定します。最大表示行数を超える場合、先頭行が削除されて新しい行が追加されます。
ロギングビュー選択行カラー設定 背景色	ロギングビューの選択行のカラーを設定します。 カラーフィルタで設定したカラーとは異なるカラーを設定することで選択行が識別しやすくなります。また、カラーフィルタ結果の行を選択した場合、本項目の設定カラーが優先されて表示されます。  が選択された場合、選択行は白色になります。
ロギングビュー選択行カラー設定 枠色	選択行の枠色を設定します。カラーフィルタでは枠色の設定ができないため、選択行の背景色と異なるカラーに設定することで選択行が識別しやすくなります。  が選択された場合、枠色は白色になります。
既定値に戻す ボタン	本項目の全てをアプリケーション固有のデフォルト値に設定します。
OK ボタン	設定内容の変更を確定してウィンドウを閉じます。
キャンセル ボタン	設定内容の変更を破棄してウィンドウを閉じます。



2.14.2. 一般設定 ログインファイル設定

ログインファイルタブを選択することにより、ログインファイル保存時及び読み込み時に関する設定項目を表示します。

GUI	説明
カレントファイル設定	カレントファイルのファイル名及び保存場所を設定します。 ※ 2.14.2.1 カレントファイル設定 を参照
アーカイブファイル設定	カレントファイルをアーカイブ化する時のサイズ、ファイル名及び保存場所を設定します。 ※ 2.14.2.2 アーカイブファイル設定 を参照

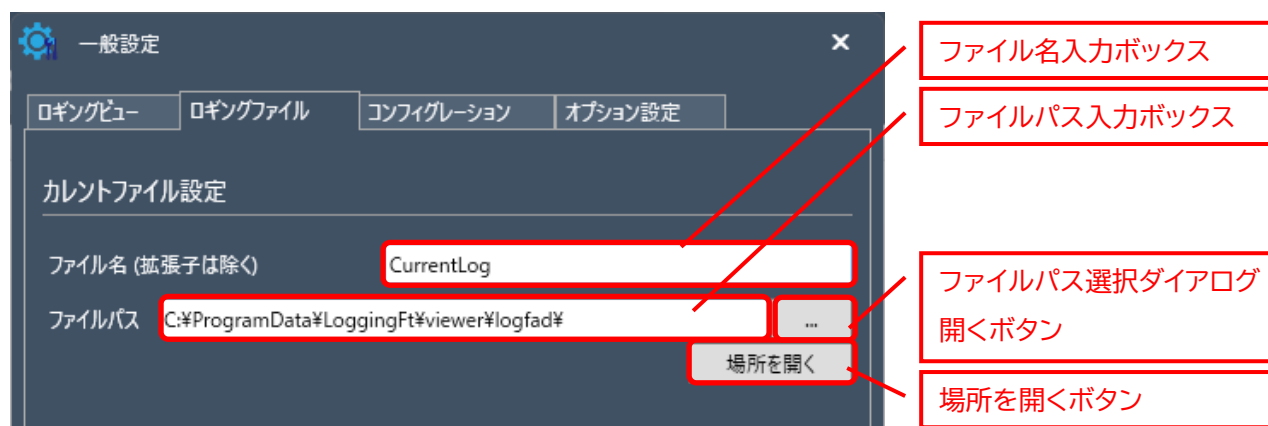


エンコード設定	ロギングファイル保存及び読み込み時のエンコーディングを設定します。 ※ 2.14.2.3 エンコード設定 を参照
既定値に戻す ボタン	本項目の全てをアプリケーション固有のデフォルト値に設定します。
OK ボタン	設定内容の変更を確定してウィンドウを閉じます。
キャンセル ボタン	設定内容の変更を破棄してウィンドウを閉じます。

2.14.2.1. カレントファイル設定

クライアントプロセスから出力されたログは常にカレントファイルとして保存されます。保存される形式は .csv です。

本項目では、カレントファイル名及び保存場所を設定します。



GUI	説明
ファイル名入力ボックス	カレントファイルのファイル名を入力します。 入力するファイル名の拡張子は不要です。
ファイルパス入力ボックス	カレントファイルを保存する場所を入力します。 通常は、ファイルパス選択ダイアログから選択して設定するようにしてください。 また、デフォルトの C:\ProgramData\Ft\viewer\logfad\ は隠しフォルダになっています。表示されていない場合はフォルダの表示設定を変更してください。
ファイルパス選択ダイアログ開くボタン	ファイルパスを選択するためのダイアログが表示されます。
場所を開く ボタン	ファイルパス入力ボックスに設定された場所がエクスプローラーで開かれます。



2.14.2.2. アーカイブファイル設定

カレントファイルに膨大なログが蓄積するとファイルサイズが大きくなり開きづらくなるため、一定のファイルサイズを超えた場合にアーカイブファイルへ移行する必要があります。

アーカイブファイルの保存形式は .csv です。

アーカイブファイルへ移行したカレントファイルは、再び0バイトからログが蓄積されます。

本項目では、カレントファイルからアーカイブファイルへ移行するためのファイルサイズやアーカイブファイル名、保存場所を設定します。

The screenshot shows the 'アーカイブファイル設定' (Archive File Settings) dialog box. Red callout boxes point to the following elements:

- ファイルサイズ入力ボックス (File Size Input Box): Points to the input field for '2 MB'.
- 単位選択ドロップダウン (Unit Selection Dropdown): Points to the 'MB' dropdown menu.
- ファイル名入力ボックス (File Name Input Box): Points to the input field containing 'ArchiveLog_'.
- ファイルパス選択ダイアログ開くボタン (Open File Path Selection Dialog Button): Points to the button with three dots '...'.
- 場所を開くボタン (Open Location Button): Points to the button labeled '場所を開く' (Open Location).
- ファイルパス入力ボックス (File Path Input Box): Points to the input field containing 'C:\ProgramData\Ft\viewer\log\'

GUI	説明
ファイルサイズ入力ボックス	カレントファイルがアーカイブファイルへ移行するファイルサイズを入力します。 設定可能範囲は 1KB ~ 256MB です。
単位選択ドロップダウン	カレントファイルがアーカイブファイルへ移行するファイルサイズの単位を選択します。 選択可能な単位は KB、MB です。
ファイル名入力ボックス	アーカイブファイルのファイル名を入力します。 アーカイブファイルは、ファイル名の後ろに移行した年月日-時分-マイクロ秒(6桁)が自動で付与されます 例) ArchiveLog_20240212-112023-386146.csv
ファイルパス入力ボックス	アーカイブファイルを保存する場所を入力します。 通常は、ファイルパス選択ダイアログから選択して設定するようにしてください。 また、デフォルトの C:\ProgramData\Ft\viewer\log\ は隠しフォルダになっています。表示されていない場合はフォルダの表示設定を変更してください。
ファイルパス選択ダイアログ開くボタン	ファイルパスの選択ダイアログが表示されます。
場所を開く ボタン	ファイルパス入力ボックスに設定された場所がエクスプローラーで開かれます。



2.14.2.3. エンコード設定

ロギングファイルへの書き込み時及び読み込み時のエンコーディングを設定します。

選択可能なエンコードはそれぞれ OS standard、UTF-8、UNICODE です。

OS standard は日本語 OS の場合、通常は Shift-JIS が自動で選択されます。

エンコード設定

書き込み時のエンコード (再起動後に適用) OS standard ▼

読み込み時のエンコード (即時適用) OS standard ▼

書き込み時エンコード選択
ドロップダウン

読み込み時エンコード選択
ドロップダウン

GUI	説明
書き込み時エンコード選択 ドロップダウン	クライアントプロセスから出力されたログがカレントファイルに保存される時のエンコーディングを選択します。 変更した場合、本アプリケーションを再起動するまで適用されません。
読み込み時エンコード選択 ドロップダウン	CSV 形式のロギングファイルを読み込む時のエンコーディングを選択します。



2.14.3. 一般設定 コンフィグレーション

コンフィグレーションタブを選択することにより、本アプリケーションの各種設定ファイルの保存場所又は、接続ポートなどの設定項目を表示します。

一般設定

ロギングビュー ログファイル **コンフィグレーション** オプション設定

コンフィグレーションファイル設定

ファイルパス
C:\ProgramData\Ft\LoggingFt\viewer\config\ ...
場所を開く

接続設定

既定の接続ポート(再起動後に適用) [49152 - 65535] 50500

内部イベントログ設定

☒ ロギングビュー表示を有効にする
☐ ファイル出力を有効にする

既定値に戻す

OK キャンセル

コンフィグレーション
ファイル設定

接続設定

内部イベントログ設定

既定値に戻す ボタン

OK ボタン

キャンセル ボタン

GUI	説明
コンフィグレーションファイル設定	本アプリケーションの各種設定ファイルの保存場所を表示します。 ※ 2.14.3.1 コンフィグレーションファイル設定 を参照
接続設定	クライアントプロセスとの接続ポート番号を設定します。 ※ 2.14.3.2 接続設定 を参照

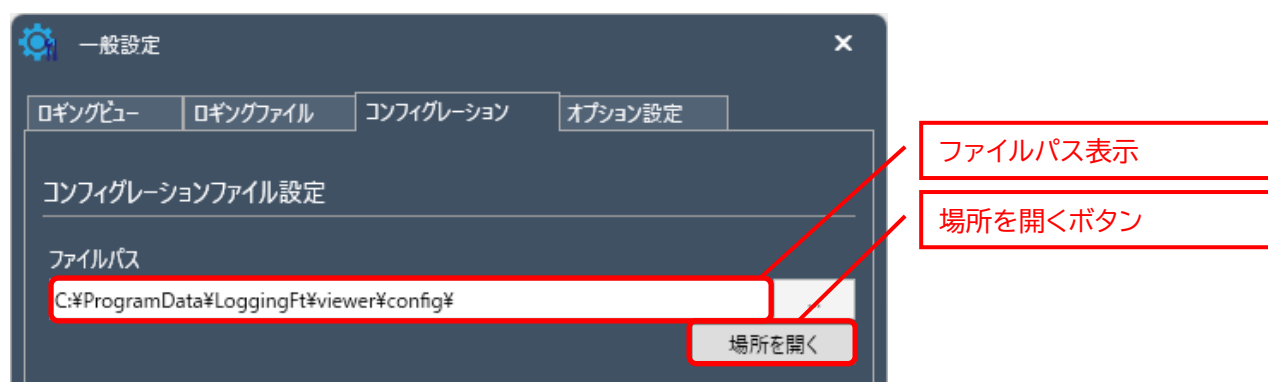


内部イベントログ設定	本アプリケーション内部で発生するイベントを出力するかどうかを設定します。 ※ 2.14.3.3 内部イベントログ設定 を参照
既定値に戻す ボタン	本項目の全てをアプリケーション固有のデフォルト値に設定します。
OK ボタン	設定内容の変更を確定してウィンドウを閉じます。
キャンセル ボタン	設定内容の変更を破棄してウィンドウを閉じます。

2.14.3.1. コンフィグレーションファイル設定

コンフィグレーションファイルとは、本アプリケーションの各種設定を保持するファイルです。本項目は、これらファイルの保存場所を示します。

現バージョンでは、ファイルパスの変更はできません。ただし、将来的に変更可能にすることにより複数プロファイルを持てるようにするための改良が行われる可能性があります。



GUI	説明
ファイルパス表示	カレントファイルのファイル名及び保存場所を設定します。
場所を開く ボタン	ファイルパス入力ボックスの場所がエクスプローラーで開かれます。



2.14.3.2. 接続設定

本アプリケーションは、クライアントプロセスとの間でソケット通信を行います。本項目では、通信ポート番号を設定します。設定変更後は、本アプリケーションの再起動が必要です。

GUI	説明
ポート番号入力ボックス	クライアントプロセスとの通信ポート番号を設定します。 クライアントプロセスがロギングを開始する際は、API のポート番号設定引数に本項目の番号を設定します。 また、本項目はお客様の環境にて他のアプリケーションが使用するポート番号と被る場合のみ変更を検討してください。

2.14.3.3. 内部イベントログ設定

本項目は、クライアントプロセスとの通信確立状態等、本アプリケーションの内部イベントを表示又はファイル出力の設定を行います。

これら内部イベントを表示したりファイル出力したりすることは、万が一クライアントプロセスとの接続が正常に完了しなかった場合などの問題解決に役立ちます。

内部イベントはカテゴリ及び重要度のカラムに `_LOG_` や `_INFO_` のように前後にアンダースコアで挟まれた文字列で表示されます。

GUI	説明
ロギングビュー表示 有効	チェックを ON にすると内部イベントがロギングビューに表示されるようになります。
ファイル出力 有効	チェックを ON にすると内部イベントがロギングファイル (2.14.2 一般設定 ロギングファイル設定) に出力されるようになります。



2.14.4. 一般設定 オプション設定（有償版機能）

オプション設定タブは、お客様のプログラムから本アプリケーションを起動する（クライアントトリガー起動）場合の設定項目を表示します。有償版をご購入いただいている場合に使用できます。

無償版の場合、本機能は表示されず、設定内容はデフォルト値が適用されます。

有償版の場合でクライアントトリガー起動している場合、本機能は表示されませんが設定内容は反映されます。また、トライアル版で期間が過ぎた場合、本機能は使用不可になります。

一般設定

ロギングビュー ロギングファイル コンフィグレーション オプション設定

クライアントトリガー起動設定

ウィンドウ状態 タスクトレイに隠す

ウィンドウ最前面表示 標準

ウィンドウ操作ロック なし

複数起動許可 不許可

セットアップ パラメーターファイル

セットアッププログラムに渡すパラメータファイルを生成します。 出力する

認証済みライセンスファイル

認証済みライセンスファイル保存場所
C:\ProgramData\LoggingFt\system\license\LoggingFootv1_123456789.aut 取得する

OK キャンセル

クライアントトリガー
起動設定

セットアップ
パラメーターファイル

認証済みライセンスファイル

OK ボタン

キャンセル ボタン



GUI	説明
クライアントトリガー起動設定	クライアントプロセスが本アプリケーションを起動する時の各種設定を行います。 ※ 2.14.4.1 クライアントトリガー起動設定 を参照
セットアップパラメーターファイル	セットアッププログラムに渡すパラメーターファイルを生成し指定の場所に出力します。 ※ 2.14.4.2 セットアップパラメーターファイル を参照
認証済みライセンスファイル	表示されている認証済みライセンスファイルを取得し指定の場所にコピーします。 ※ 2.14.4.3 認証済みライセンスファイル を参照
OK ボタン	設定内容の変更を確定してウィンドウを閉じます。
キャンセル ボタン	設定内容の変更を破棄してウィンドウを閉じます。

2.14.4.1. クライアントトリガー起動設定

クライアントトリガー起動とは、FTSDK API を組込んだお客様のプログラムのクライアントプロセスが本アプリケーションを起動することを示します。(詳細は別紙「ソフトウェア導入ガイド」参照)

本項目は、クライアントトリガー起動した場合の本アプリケーションの各種動作を設定します。

クライアントトリガー起動設定

ウィンドウ状態: タスクトレイに隠す

ウィンドウ最前面表示: 標準

ウィンドウ操作ロック: なし

複数起動許可: 不許可

ウィンドウ状態

ウィンドウ最前面表示

ウィンドウ操作ロック

複数起動許可

ウィンドウ操作ロック [あり] の場合

クライアントトリガー起動設定

ウィンドウ状態: タスクトレイに隠す

ウィンドウ最前面表示: 標準

ウィンドウ操作ロック: あり

解除パスワード: ●●●●

複数起動許可: 不許可

ウィンドウ操作ロック あり

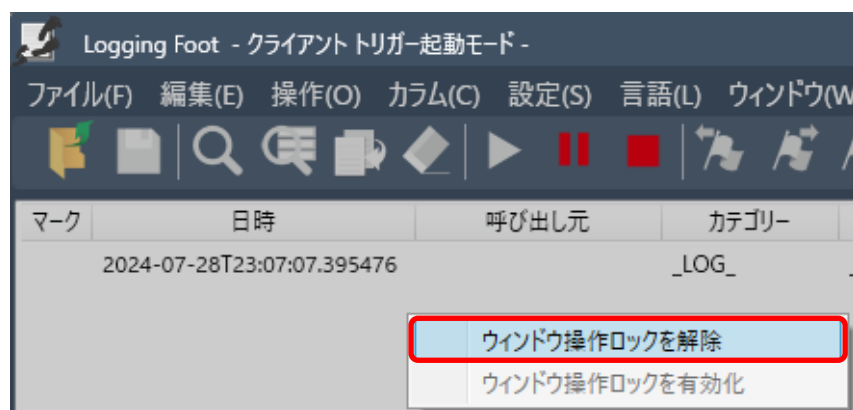
解除パスワード
入力ボックス



GUI	説明
ウィンドウ状態 ドロップダウン	本アプリケーションが起動した時のウィンドウ状態を設定します。
ウィンドウ最前面表示 ドロップダウン	本アプリケーションのウィンドウを常に最前面に表示するかどうかを設定します。
ウィンドウ操作ロック ドロップダウン	本アプリケーションのウィンドウを操作可能にするかどうかを設定します。
ウィンドウ操作ロック ドロップダウン - あり	[あり] を選択した場合、解除パスワード入力ボックスが表示されます。 ※ <ウィンドウ操作ロック解除方法> を参照
解除パスワード入力ボックス	ウィンドウ操作ロックを解除するためのパスワードを設定します。
複数起動許可 ドロップダウン	クライアントトリガー起動した本アプリケーションが存在している時、複数起動を許可するかどうかを設定します。

<ウィンドウ操作ロック解除方法>

ウィンドウ操作ロックありで起動した場合、下図のようにウィンドウ全体が暗く表示されます。ウィンドウの任意の場所でマウス右クリックメニューを表示させて[ウィンドウ操作ロックを解除]を選択するとパスワード入力ボックスが表示されますので本項目で設定した解除パスワードを入力します。



<ウィンドウ操作ロック有効化方法>

ウィンドウ操作ロックが解除されている状態で、ウィンドウの空白部分(赤色破線矩形部)でマウス右クリックメニューを表示させて[ウィンドウ操作ロックを有効化]を選択します。





2.14.4.2. セットアップパラメーターファイル

セットアップパラメーターファイルとは、セットアッププログラムを使用して本アプリケーションをインストールする時に、セットアッププログラムの引数に渡す設定ファイルのことを示します。セットアップパラメーターファイルには、[2.14.2 一般設定 ログिंगファイル設定](#)、[2.14.3 一般設定 コンフィグレーション](#)、[2.14.4.1 クライアントトリガー起動設定](#)、[2.15 高度な設定を行う](#) で設定した任意のカテゴリについての設定内容が保存されており、セットアッププログラムによりインストールされた本アプリケーションは、これら設定内容が反映された状態で起動します。

セットアッププログラムについての詳細は別紙「セットアップガイド」をご参照ください。

セットアップ パラメーターファイル

セットアッププログラムに渡すパラメータファイルを生成します。

出力する

GUI	説明
出力する ボタン	セットアップパラメーターファイル(.setup)を保存するためのダイアログが表示されます。

2.14.4.3. 認証済みライセンスファイル

本ソフトウェアの有償機能をご使用いただくためには、ライセンスをご購入する必要があります。ライセンスの登録に成功すると認証済みライセンスファイルとして下図の所定場所に保持されます。

本ソフトウェアを別 PC に移管する場合に、取得するボタンを押下して USB 等のメディアに認証済みライセンスファイルを保存します。移管先 PC では、保存したメディアの認証済みライセンスファイルを登録します。

ライセンス登録については [3.1 ライセンスを登録する](#) をご参照ください。

認証済みライセンスファイル

認証済みライセンスファイル保存場所


C:\ProgramData\LoggingFt\system\license\LoggingFootv1_123456789.aut

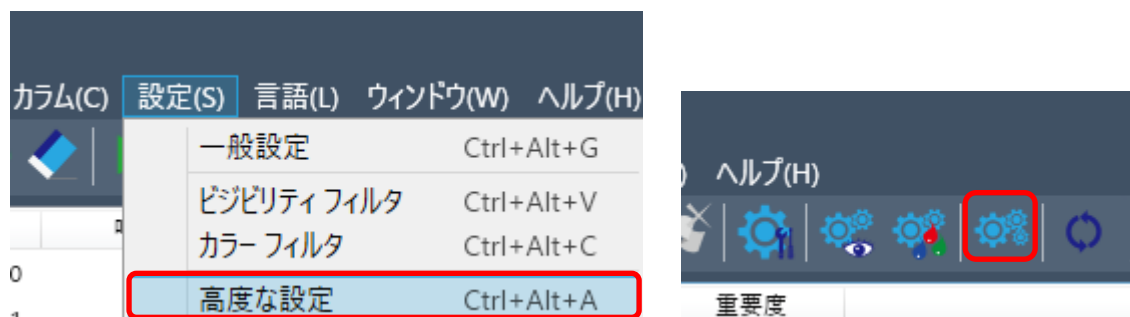
取得する

GUI	説明
取得する ボタン	保存先を選択するためのダイアログが表示されます。



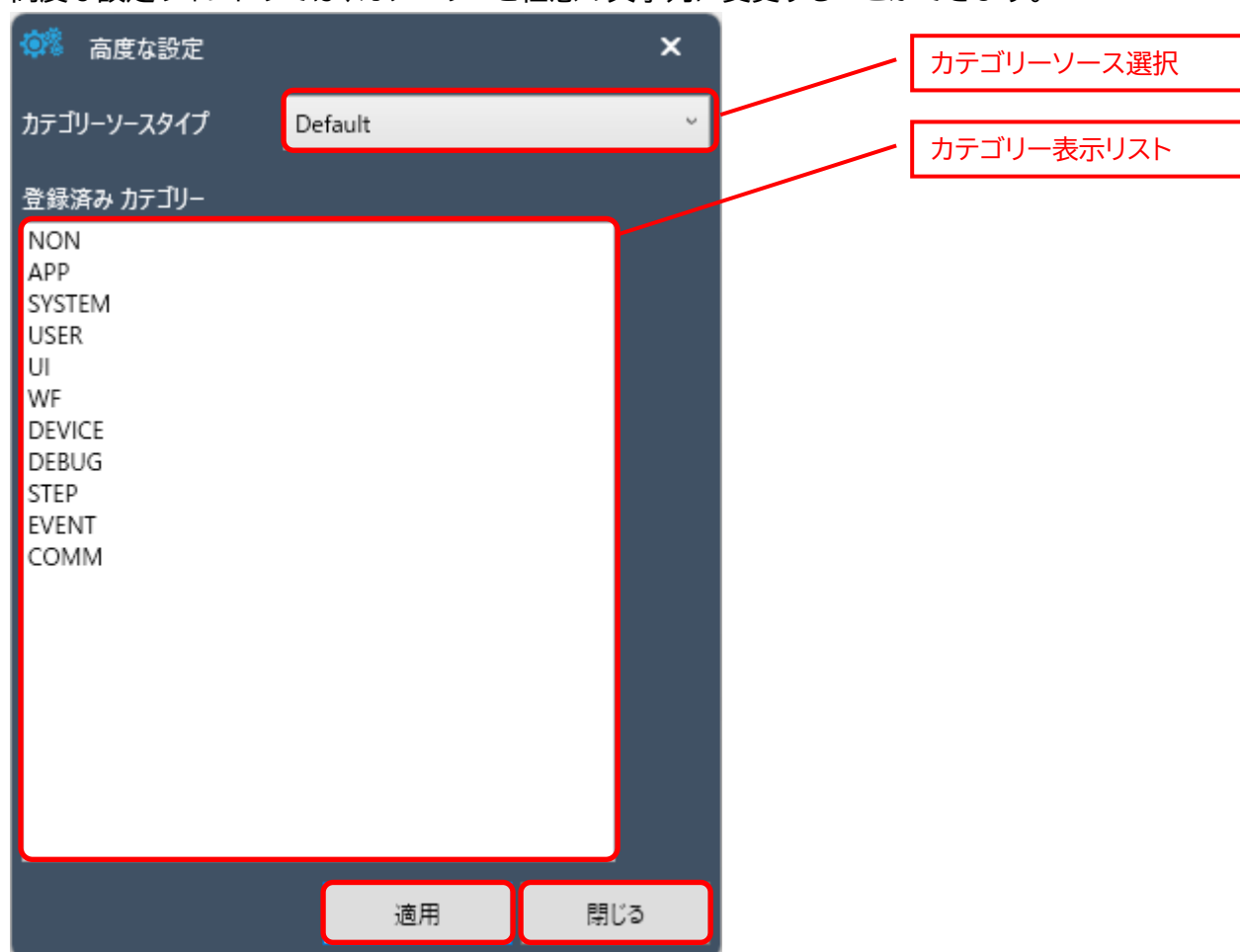
2.15. 高度な設定を行う

メインメニュー [設定(S)>一般設定]を選択又はツールバーアイコン  を選択することにより高度な設定を行うためのウィンドウが開かれます。



2.15.1. 高度な設定ウィンドウの説明

高度な設定ウィンドウでは、カテゴリを任意の文字列に変更することができます。





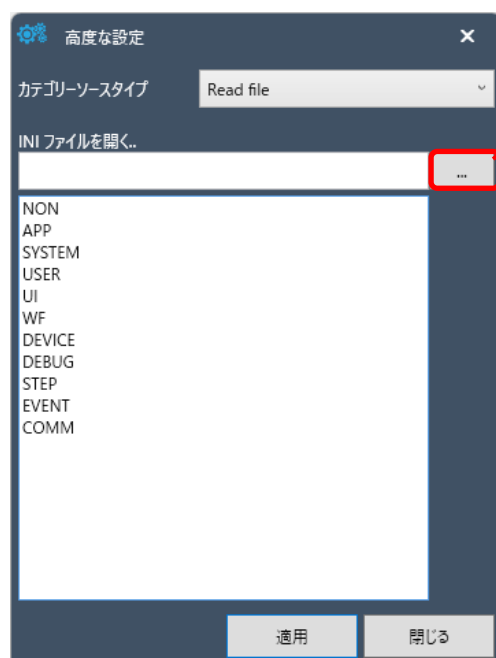
GUI	説明
カテゴリーソース選択	カテゴリーの登録方法を選択します。 下記の中から選択できます。 - Default (2.15.1.1 参照) - Read file (2.15.1.2 参照) - User definition (2.15.1.3 参照) - Programable (2.15.1.4 参照)
カテゴリー表示リスト	カテゴリーソースタイプごとのカテゴリーが表示されます。
適用 ボタン	カテゴリー表示リストの内容が適用されます。
閉じる ボタン	ウィンドウが閉じられます。

2.15.1.1. カテゴリーソースタイプ - Default

本アプリケーション既定のカテゴリーが登録されています。本カテゴリーソースの登録内容は変更できません。主に既定のカテゴリーに戻したい場合に使用します。

2.15.1.2. カテゴリーソースタイプ - Read file

カテゴリーソースタイプ User definition (2.15.1.3 カテゴリーソースタイプ - User definition 参照)でエクスポートしたカテゴリー定義ファイルを読み込みする場合に使用します。



ファイル選択ダイアログ表示ボタン

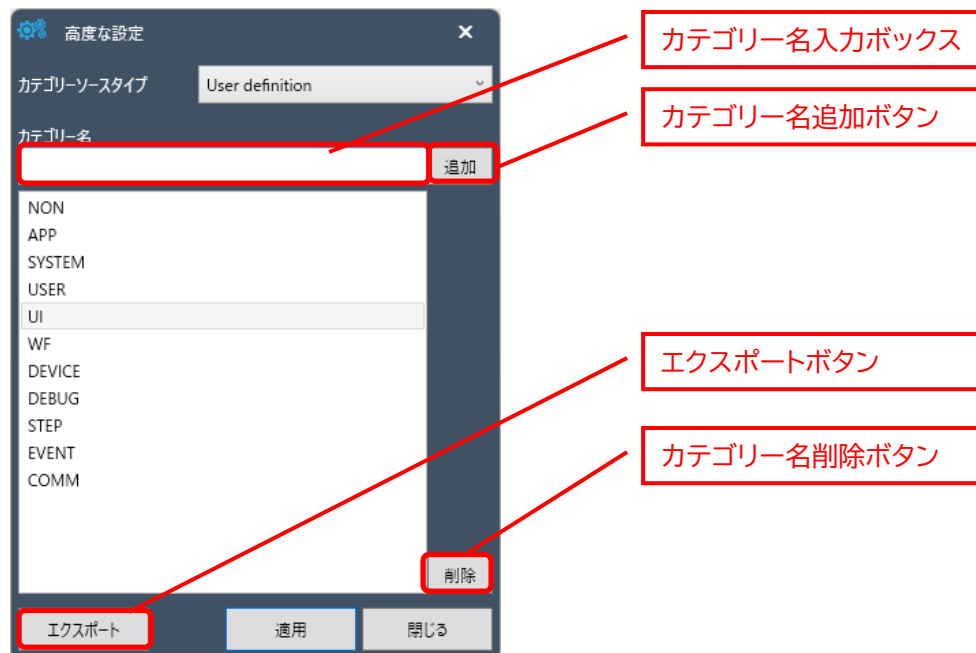
GUI	説明
ファイル選択ダイアログ表示ボタン	カテゴリー定義ファイル(.catdef)を選択するためのダイアログが表示されます。



2.15.1.3. カテゴリーソースタイプ - User definition

任意の文字列をカテゴリーとして登録する場合に使用します。カテゴリー名入力ボックスに登録したいカテゴリー文字列を入力後、追加ボタンを押下することで登録します。

カテゴリー「NON」は、どのカテゴリーにも属していないことを示すアプリケーションで予約されているカテゴリーです。このカテゴリーは削除できません。



GUI	説明
カテゴリー名入力ボックス	カテゴリーとして登録したい文字列を入力します。
カテゴリー名追加 ボタン	カテゴリー名入力ボックスに入力した文字列がカテゴリー表示リストに登録されます。
カテゴリー名削除 ボタン	カテゴリー表示リストにて選択されているカテゴリーが削除されます。
エクスポート ボタン	カテゴリー表示リストの内容をカテゴリー定義ファイル(.catdef)として任意の場所に保存するためのダイアログが開かれます。

2.15.1.4. カテゴリーソースタイプ - Programable

クライアントトリガー起動により本アプリケーションが起動された場合に現在のカテゴリーが表示されます。クライアントトリガー起動についての詳細は別紙「ソフトウェア導入ガイド」をご参照ください。



2.16. ウィンドウの動作を設定する

本アプリケーションでは、ウィンドウを常に最前面に表示したり、タスクトレイに最小化表示したりすることができます。

2.16.1. ウィンドウを常に最前面に表示する

ウィンドウを常に最前面に表示を有効にするには、メインメニュー [ウィンドウ(W) > 常に手前に表示] を選択します。再度、同メニューを選択することで常に最前面に表示を無効にします。

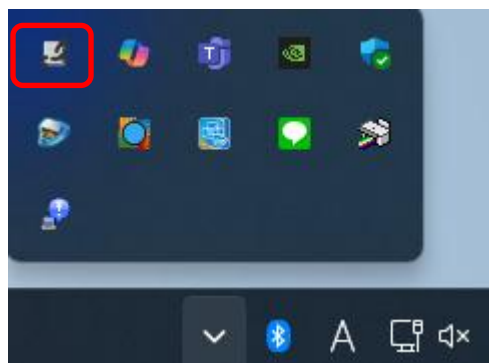


2.16.2. ウィンドウをタスクトレイに最小化表示する

ウィンドウをタスクトレイに最小化表示をするには、メインメニュー [ウィンドウ(W) > タスクトレイに隠す] を選択します。



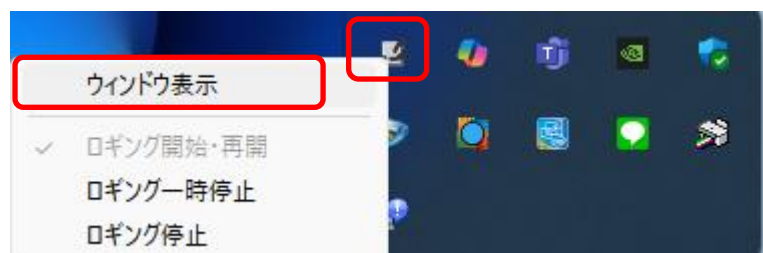
タスクトレイ内に Logging Foot のアイコンが表示されます。





2.16.2.1. タスクトレイ最小化表示から復帰する

タスクトレイアイコンを左クリック又は、右クリックで表示されるコンテキストメニューから「ウィンドウ表示」を選択することで通常のウィンドウ表示に復帰します。

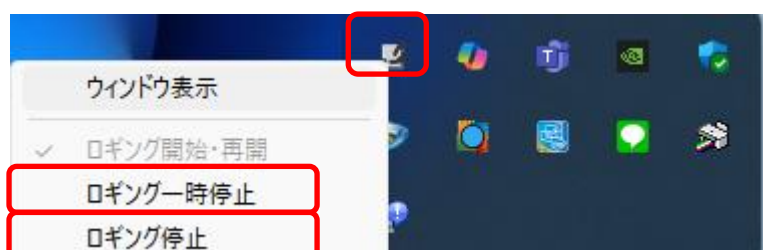


2.16.2.2. タスクトレイ最小化表示の状態でログイングを一時停止又は停止する

現在の状態がログイング中である時、ログイングを一時停止又は停止させることができます。

タスクトレイアイコン上の右クリックで表示されるコンテキストメニューから 一時停止させたい場合は「ログイング一時停止」を、停止させたい場合は「ログイング停止」を選択します。

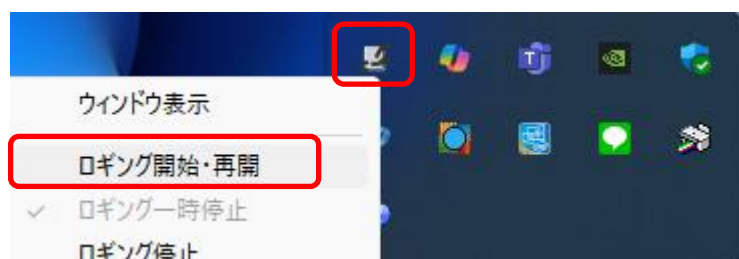
※ ログイングの一時停止及び停止の違いについては [2.10 ログイングの停止・再開を行う](#) を参照してください。



2.16.2.3. タスクトレイ最小化表示の状態でログイングを開始・再開する

現在の状態がログイング一時停止又は停止である時、ログイングを再開することができます。

タスクトレイアイコン上の右クリックで表示されるコンテキストメニューから「ログイング開始・再開」を選択します。





3. ライセンス登録

本ソフトウェアは、購入方法によってはライセンスファイルの登録が必要な場合があります。その場合、初期状態ではフリーエディション又はトライアルエディションとして起動しますので購入先より入手したライセンスファイル又はパッケージに同梱されているライセンスファイルを以降の手順で登録することにより有償機能が有効になります。

各エディションの詳細は別紙「ソフトウェア導入ガイド」をご参照ください。

3.1. ライセンスを登録する

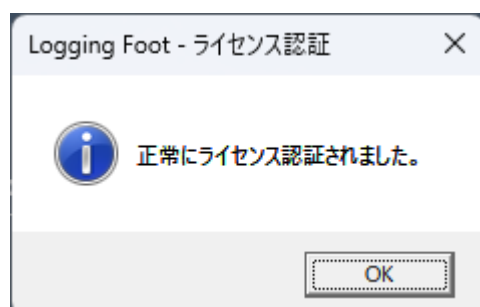
メインメニュー [ヘルプ(H)>バージョン情報]を選択するとバージョン情報ダイアログが開かれます。



下図バージョン情報ウィンドウの [登録] ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが開かれますので購入先から入手したライセンスファイル (.lic) を選択します。



正しく認証されると下図ダイアログが表示されます。





3.2. トライアルエディションについて

有償機能を 30日間、無料でお試しいただけます。本エディションは、使い始めてから一定の日数が経過するごとに本アプリケーション起動時に残り試用日数を通知するメッセージが表示されます。本エディションを組み込んだプログラムを商用稼働させることはできません。本エディションをお試し後、引き続き本アプリケーションを使用される場合は、フリーエディションに切り替える(3.2.1 フリーエディションへの切り替え)又は、ライセンス登録することによりご使用いただけます。

3.2.1. フリーエディションへの切り替え

メインメニュー [ヘルプ(H)>バージョン情報]を選択するとバージョン情報ダイアログが開かれます。



下図、バージョン情報ダイアログで [実行] ボタンを押下します。

